

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成23年2月17日 (2011.2.17)

【公開番号】特開2009-160299(P2009-160299A)
 【公開日】平成21年7月23日 (2009.7.23)
 【年通号数】公開・登録公報2009-029
 【出願番号】特願2008-2219(P2008-2219)
 【国際特許分類】

A 6 3 F 5/04 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 5/04 5 1 2 C

A 6 3 F 5/04 5 1 2 Z

【手続補正書】
 【提出日】平成22年12月27日 (2010.12.27)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

ホッパから溢れたコインが流入する補助タンクを有する遊技機において、
前記補助タンクは、
上部が開放され下部に開口穴が形成されたタンク本体と、
該タンク本体の内方に移動自在に支持されて、前記開口穴を閉塞する閉塞位置と前記開口穴を開放する開放位置のいずれか一方に選択的に配置可能な閉塞部材と、
を備え、

前記閉塞部材は、前記閉塞位置に配置された状態で前記補助タンクが遊技機本体内に装着された場合に、前記閉塞位置から前記開放位置に移動する途中の、前記閉塞位置よりも前記開放位置側で前記タンク本体内に突出する突出部材に当接して移動が規制されることを特徴とする遊技機。

【請求項 2】

ホッパから溢れたコインが流入する補助タンクを有する遊技機において、
前記補助タンクは、
上部が開放され下部に開口穴が形成されたタンク本体と、
該タンク本体の内方に回動自在に支持されて、前記開口穴を閉塞する閉塞位置と前記開口穴を開放する開放位置のいずれか一方に選択的に配置可能な閉塞部材と、
を備え、

前記閉塞部材は、前記閉塞位置に配置された状態で前記補助タンクが遊技機本体内に装着された場合に、前記閉塞位置から前記開放位置に回動する途中の、前記閉塞位置よりも前記開放位置側で前記タンク本体内に突出する突出部材に当接して移動が規制されることを特徴とする遊技機。

【請求項 3】

前記補助タンクのタンク本体には、前記突出部材に前記閉塞部材を当接させた状態で前記閉塞部材と前記タンク本体の内面との間に介在されるように底部が設けられていることを特徴とする請求項 2 に記載の遊技機。

【請求項 4】

前記補助タンクのタンク本体には、前記閉塞部材が前記閉塞位置から前記突出部材に

当接するまでの前記閉塞部材の回動軌跡に沿って断面が略円弧状に湾曲する湾曲部が設けられていることを特徴とする請求項 2 又は 3 記載の遊技機。

【請求項 5】

前記補助タンクは、前記閉塞部材を前記開放位置と前記閉塞位置との間の予め設定された傾斜角度位置に配置して取り外し方向に移動させた場合に、前記閉塞部材の前記タンク本体への支持を解除して前記閉塞部材を前記タンク本体から取り外し可能な構成を有し、

前記突出部材は、前記閉塞部材を前記閉塞位置から開放側に回動させた場合に、前記閉塞部材を前記タンク本体から取外可能な前記閉塞部材の傾斜角度位置よりも、閉塞側の傾斜角度位置で前記閉塞部材と当接する構成を有することを特徴とする請求項 2 ～ 4 の何れか 1 項に記載の遊技機。

【請求項 6】

前記タンク本体には、側壁に穴部が形成され、

前記突出部材は、

前記補助タンクを前記遊技機本体内に装着した場合に、前記穴部から前記タンク本体の内方に挿入されて前記補助タンク内のコインの貯留状態を検出するコイン貯留状態検出手段によって構成されることを特徴とする請求項 2 ～ 5 のいずれか 1 項に記載の遊技機。

【請求項 7】

前記コイン貯留状態検出手段は、

補助タンク内に挿入された先端部が基端部の高さ位置以上に位置するセンサ使用姿勢状態と、前記先端部が前記基端部よりも下方に位置する閉塞部材規制姿勢状態のいずれか一方に選択的に切り替え可能に支持されることを特徴とする請求項 6 に記載の遊技機。

【請求項 8】

前記筐体に設けられ、前記センサ使用姿勢状態で前記コイン貯留状態検出手段の基端部を挿入することによって前記コイン貯留状態検出手段を前記センサ使用姿勢状態に支持し、前記閉塞部材規制姿勢状態で前記コイン貯留状態検出手段の基端部を挿入することによって前記コイン貯留状態検出手段を前記閉塞部材規制姿勢状態に支持するソケットを有することを特徴とする請求項 7 に記載の遊技機。

【請求項 9】

前記遊技機本体は、

前部が開放された箱状の筐体と、

前記筐体の前部を開閉する前面扉と、

前記補助タンクを前記筐体の内方に装着して前記前面扉を閉じた場合に、前記タンク本体に当接して前記遊技機本体内部における前記補助タンクの前後左右及び上下の移動を規制する補助タンク移動規制手段とを有することを特徴とする請求項 1 ～ 8 のいずれか 1 項に記載の遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の詳細な説明】

【発明の名称】遊技機

【技術分野】

【0001】

本発明は、スロットマシン等の遊技機に関するものである。

【背景技術】

【0002】

特許文献 1 には、遊技機内でホッパから溢れた遊技媒体の自動回収と手動回収の両方に対応可能とする補助タンクを有する遊技機が示されている。

【0003】

遊技機本体の底面には、遊技媒体の自動回収に対応可能とするための回収穴が予め開口形成されており、外部と遊技機本体の内部とが連通されている。

【０００４】

遊技機は、遊技ホールの島設備に設置され、その島設備が遊技媒体の自動回収装置を備えている場合には、回収穴の下方に自動回収装置の回収手段が連続して配置されるように設置される。

【０００５】

補助タンクは、補助タンクの底壁部に、開口穴を形成したい部分を取り囲むように板厚方向に貫通する切り込み部が複数箇所の接続リブを残して断続的に形成されており、この複数箇所の接続リブを切断することによって開口穴を形成できるようになっている。

【０００６】

上記従来の補助タンクは、遊技媒体の手動回収を行う島設備では、そのまま使用され、遊技媒体の自動回収を行う島設備では、補助タンクの底壁に開口穴が形成されて使用される。

【０００７】

補助タンクの開口穴は、遊技機本体内に補助タンクがセットされた状態で、遊技機本体の底面の回収穴に連通する。そして、ホッパから溢れて補助タンクに回収された遊技媒体を開口穴を通過させて補助タンクから排出し、遊技機本体の回収穴を通過させて、自動回収装置に供給することができるようになっている。

【０００８】

【特許文献１】特開２００５－３２３７５０号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【０００９】

しかしながら、特許文献１に記載された技術の場合、遊技機本体の底面には、自動回収用の回収穴が予め開口形成されているので、例えば遊技機を島設備に設置する前や、中古機として移設するために島設備等から取り外された状態等、遊技機単体の状態においては、遊技機本体の回収穴が露出し、そこから補助タンクの開口穴や切り込み部を介して不正行為が行われるおそれがあり、好ましくない。

【００１０】

本発明は、上記例示した問題等に鑑みてなされたものであり、その目的は、不正行為を抑制することができる遊技機を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【００１１】

上記課題を解決する請求項１に記載の発明による遊技機は、ホッパから溢れたコインが流入する補助タンクを有する遊技機において、前記補助タンクは、上部が開放され下部に開口穴が形成されたタンク本体と、該タンク本体の内方に移動自在に支持されて、前記開口穴を閉塞する閉塞位置と前記開口穴を開放する開放位置のいずれか一方に選択的に配置可能な閉塞部材と、を備え、前記閉塞部材は、前記閉塞位置に配置された状態で前記補助タンクが遊技機本体内に装着された場合に、前記閉塞位置から前記開放位置に移動する途中の、前記閉塞位置よりも前記開放位置側で前記タンク本体内に突出する突出部材に当接して移動が規制されることを特徴とする。

【００１２】

また、請求項２の記載の発明による遊技機は、ホッパから溢れたコインが流入する補助タンクを有する遊技機において、前記補助タンクは、上部が開放され下部に開口穴が形成されたタンク本体と、該タンク本体の内方に回動自在に支持されて、前記開口穴を閉塞する閉塞位置と前記開口穴を開放する開放位置のいずれか一方に選択的に配置可能な閉塞部材と、を備え、前記閉塞部材は、前記閉塞位置に配置された状態で前記補助タンクが遊技機本体内に装着された場合に、前記閉塞位置から前記開放位置に回動する途中の、前記閉塞位置よりも前記開放位置側で前記タンク本体内に突出する突出部材に当接して移動が規

制されることを特徴とする。

【 0 0 1 3 】

請求項 1、2 に記載の発明によると、種々の不正行為を未然に防ぐことができる。

【 発明の効果 】

【 0 0 1 4 】

本発明によれば、種々の不正行為を未然に防ぐことができる。

【 発明を実施するための最良の形態 】

【 0 0 1 5 】

はじめに、本実施の形態から抽出され得る発明群を手段 n ($n = 0, 1, 2 \dots$) とし、て区分して示し、それらを必要に応じて効果等を示しつつ説明する。

【 0 0 1 6 】

手段 0 . ホッパから溢れたコインが流入する補助タンクを有する遊技機において、前記補助タンクは、上部が開放され下部に開口穴が形成されたタンク本体と、該タンク本体の内方に移動自在に支持されて、前記開口穴を閉塞する閉塞位置と前記開口穴を開放する開放位置のいずれか一方に選択的に配置可能な閉塞部材と、を備え、前記閉塞部材は、前記閉塞位置に配置された状態で前記補助タンクが遊技機本体内に装着された場合に、前記閉塞位置から前記開放位置に移動する途中の、前記閉塞位置よりも前記開放位置側で前記タンク本体内に突出する突出部材に当接して移動が規制されることを特徴とする遊技機。

【 0 0 1 7 】

手段 1 . 上部が開放され下部に開口穴が形成されたタンク本体の内方に蓋体が移動自在に支持され、前記開口穴を閉塞する閉塞位置と前記開口穴を開放する開放位置のいずれか一方に前記蓋体を選択的に配置可能な補助タンクを、前記蓋体が開放位置に配置された状態で遊技機本体内に装着し、ホッパから溢れたコインを前記補助タンクの上方から前記補助タンク内に流入させた場合に、前記開口穴及び前記開口穴に連通して前記遊技機本体の底板に開口するコイン回収穴にコインを通過させて前記遊技機本体の下方に排出する遊技機において、前記蓋体が前記閉塞位置に配置された状態で前記補助タンクが前記遊技機本体内に装着された場合に、前記蓋体の開放側に対向して配置され、前記蓋体との当接により前記蓋体の開放側への移動を規制する蓋体移動規制手段を備えることを特徴とする遊技機。

【 0 0 1 8 】

手段 1 によれば、蓋体 5 2 を閉塞位置に配置した状態で補助タンク 5 0 を遊技機本体 4 内に装着した場合に、蓋体移動規制手段 1 9 B、1 9 C が蓋体 5 2 の開放側に対向して配置され、蓋体 5 2 との当接により蓋体 5 2 の開放側への移動が規制される。

【 0 0 1 9 】

従って、例えば遊技機 1 を設置する前や、中古機として移設するために島設備から取り外された状態等、遊技機 1 単体の状態とされて遊技機本体 4 の底板 2 B のコイン回収穴 2 F が露出する状況において、蓋体 5 2 を閉塞位置に配置した状態で補助タンク 5 0 を遊技機本体 4 内に装着しておくことにより、コイン回収穴 2 F から手や器具等が挿入されて蓋体 5 2 が閉塞位置から開放側に移動する方向に付勢された場合に、蓋体 5 2 を蓋体回動規制手段 1 9 B、1 9 C に当接させて、蓋体 5 2 の開放側への移動を規制し、開口穴 5 3 が開放されるのを防ぐことができる。従って、遊技機本体 4 の底板 2 B に開口するコイン回収穴 2 F から遊技機本体 4 内に針金や特殊工具等の異物が挿入されるのを防ぐことができ、このような異物を使用した種々の不正行為を未然に防ぐことができる。

【 0 0 2 0 】

手段 2 . 上部が開放され下部に開口穴が形成されたタンク本体の内方に蓋体が回動自在に支持され、前記開口穴を閉塞する閉塞位置と前記開口穴を開放する開放位置のいずれか一方に前記蓋体を選択的に配置可能な補助タンクを、前記蓋体が開放位置に配置された状態で遊技機本体内に装着し、ホッパから溢れたコインを前記補助タンクの上方から前記補助タンク内に流入させた場合に、前記開口穴及び前記開口穴に連通して前記遊技機本体の底板に開口するコイン回収穴にコインを通過させて前記遊技機本体の下方に排出する遊技

機において、前記蓋体が前記閉塞位置に配置された状態で前記補助タンクが前記遊技機本体内に装着された場合に、前記蓋体の開放側に対向して配置され、前記蓋体との当接により前記蓋体の開放側への回動を規制する蓋体回動規制手段を備えることを特徴とする遊技機。

【0021】

手段2によれば、蓋体52を閉塞位置に配置した状態で補助タンク50を遊技機本体4内に装着した場合に、蓋体回動規制手段19B、19Cが蓋体52の開放側に対向して配置され、蓋体52との当接により蓋体52の開放側への回動が規制される。

【0022】

従って、例えば遊技機1を設置する前や、中古機として移設するために島設備から取り外された状態等、遊技機1単体の状態とされて遊技機本体4の底板2Bのコイン回収穴2Fが露出する状況において、蓋体52を閉塞位置に配置した状態で補助タンク50を遊技機本体4内に装着しておくことにより、コイン回収穴2Fから手や器具等が挿入されて蓋体52が閉塞位置から開放側に回動する方向に付勢された場合に、蓋体52を蓋体回動規制手段19Bに当接させて、蓋体52の開放側への回動を規制し、開口穴53が開放されるのを防ぐことができる。従って、遊技機本体4の底板2Bに開口するコイン回収穴2Fから遊技機本体4内に針金や特殊工具等の異物が挿入されるのを防ぐことができ、このような異物を使用した種々の不正行為を未然に防ぐことができる。

【0023】

手段3・手段2に記載の遊技機において、前記補助タンクのタンク本体には、前記蓋体回動規制手段に前記蓋体を当接させた状態で前記蓋体と前記タンク本体の内面との間に介在されるように底部が設けられていることを特徴とする。

【0024】

手段3によれば、蓋体52を蓋体回動規制手段19Bに当接させた状態で蓋体52とタンク本体51の内面との間に形成される開口隙間に、底部61を介在させることができる。従って、かかる開口隙間から遊技機本体4内に針金や特殊工具等の異物が挿入されるのを困難化でき、このような異物を使用した種々の不正行為を未然に防ぐことができる。

【0025】

手段4・手段2又は3に記載の遊技機において、前記補助タンクのタンク本体には、前記蓋体が前記閉塞位置から前記蓋体回動規制手段に当接するまでの前記蓋体の回動軌跡に沿って断面が略円弧状に湾曲する湾曲部が設けられていることを特徴とする。

【0026】

蓋体52を閉塞位置から開放側に向かって回動させた場合に、蓋体52を湾曲部62に対向させて、蓋体52とタンク本体51の内面との間に形成される開口隙間が漸次拡大されるのを防ぐことができる。従って、かかる開口隙間から遊技機本体4内に針金や特殊工具等の異物が挿入されるのを困難化でき、このような異物を使用した種々の不正行為を未然に防ぐことができる。尚、湾曲部62の断面形状は、厳密な円弧に限定されるものではなく、開口隙間から遊技機本体4内に異物を挿入する行為を困難化できればよく、例えば複数の短い直線を円弧状に連続して配列させたものなど、略円弧状のものも含まれる。

【0027】

手段5・手段2～4の何れか1つに記載の遊技機において、前記蓋体回動規制手段は、前記補助タンクを前記遊技機本体内に装着した場合に前記タンク本体の内方に挿入されて前記補助タンク内のコインの貯留状態を検出するコイン貯留状態検出手段のセンサ棒によって構成されることを特徴とする。

【0028】

従って、タンク本体51内のコインの貯留状態を検出するコイン貯留状態検出手段のセンサ棒19B、19Cを蓋体回動規制手段として兼用することができ、部品点数を増加させることなく、省スペース化が可能な蓋体回動規制手段19B、19Cを構成することができる。

【0029】

手段 6 . 手段 5 に記載の遊技機において、前記遊技機本体は、前部が開放された箱状の筐体を有し、前記補助タンクは、前記筐体の前方から前記筐体の内方に装着され、該装着状態で前記筐体の背板と対向する前記タンク本体の後壁部にセンサ挿入穴が開口し、前記センサ棒は、前記筐体の背板に基端部が支持され、前記筐体の背板から前記筐体の前方に向かって延在し、前記補助タンクの装着により前記センサ挿入穴に挿入されて前記タンク本体の内方に先端部が配置される構成を有することを特徴とする。

【 0 0 3 0 】

手段 6 に記載の発明は、上述の手段に記載した発明の具体的な構成の一例を示したものであり、これによれば、蓋体 5 2 を閉塞位置に配置して補助タンク 5 0 を筐体 2 の内方に装着した場合に、センサ棒 1 9 B、1 9 C の先端部をタンク本体 5 1 の内方で且つ蓋体 5 2 の開放側に対向する位置に配置し、蓋体 5 2 との当接により蓋体 5 2 の開放側への回動を規制することができる。

【 0 0 3 1 】

手段 7 . 手段 6 に記載の遊技機において、前記補助タンクは、前記蓋体を前記開放位置と前記閉塞位置との中間の予め設定された傾斜角度位置に配置して取り外し方向に移動させた場合に、前記蓋体の前記タンク本体への支持を解除して前記蓋体を前記タンク本体から取り外し可能な構成を有し、前記センサ棒は、前記蓋体を前記閉塞位置から開放側に回動させた場合に、前記蓋体を前記タンク本体から取外可能な前記蓋体の傾斜角度位置よりも、閉塞側の傾斜角度位置で前記蓋体と当接する構成を有することを特徴とする。

【 0 0 3 2 】

手段 7 に記載の発明によると、補助タンク 5 0 を遊技機本体 4 に装着して、蓋体 5 2 を閉塞位置から開放側に回動させた場合に、蓋体 5 2 をタンク本体 5 1 から取外可能な傾斜角度位置よりも、閉塞側の傾斜角度位置でセンサ棒 1 9 B、1 9 C に蓋体 5 2 が当接する。

【 0 0 3 3 】

従って、補助タンク 5 0 が遊技機本体 4 に装着された状態で蓋体 5 2 が開放側に付勢された場合に、センサ棒 1 9 B、1 9 C に当接させて蓋体 5 2 の開放側への回動を規制すると共に、蓋体 5 2 がタンク本体 5 1 から取外可能な傾斜角度位置に配置されるのを防ぐことができる。

【 0 0 3 4 】

手段 8 . 手段 6 又は 7 に記載の遊技機において、前記センサ棒は、前記先端部が前記基端部の高さ位置以上に位置するセンサ使用姿勢状態と、前記先端部が前記基端部よりも下方に位置する回動規制姿勢状態のいずれか一方に選択的に切り替え可能に支持されることを特徴とする。

【 0 0 3 5 】

手段 8 によれば、蓋体 5 2 が閉塞位置に配置された補助タンク 5 0 を筐体 2 の内方に装着してセンサ棒 1 9 C を回動規制姿勢状態とした場合に、センサ棒 1 9 C の先端部 7 3 を基端部の高さ位置よりも下方に配置することができ、蓋体 5 2 の上面 2 0 1 a に対して、より接近させた位置に対向配置することができる。

【 0 0 3 6 】

従って、基端部 7 1 が筐体 2 の背板 2 C に支持される高さ位置を低くすることなく、蓋体 5 2 が開放側に回動される開き角度を小さくすることができ、蓋体 5 2 とタンク本体 5 1 の内面との間に形成される開口隙間を狭くすることができ、従って、かかる開口隙間から針金や特殊工具等の異物が挿入されるのを防ぐことができ、このような異物を使用した種々の不正行為を未然に防ぐことができる。

【 0 0 3 7 】

一方、センサ棒 1 9 C をセンサ使用姿勢状態とした場合には、センサ棒 1 9 C の先端部 7 3 を、タンク本体 5 1 の内方でコインの貯留状態を検出するのに好適な高さ位置に配置することができる。

【 0 0 3 8 】

手段 9 . 手段 8 に記載の遊技機において、前記筐体の背板に設けられ、前記センサ使用姿勢状態で前記センサ棒の基端部を挿入することによって前記センサ棒を前記センサ使用姿勢状態に支持し、前記回動規制姿勢状態で前記センサ棒の基端部を挿入することによって前記センサ棒を前記回動規制姿勢状態に支持するソケットを有することを特徴とする。

【 0 0 3 9 】

手段 9 によると、センサ使用姿勢状態でセンサ棒 1 9 C の基端部 7 1 をソケット 7 0 に挿入することによって、センサ棒 1 9 C をセンサ使用姿勢状態に支持し、回動規制姿勢状態でセンサ棒 1 9 C の基端部 7 1 をソケット 7 0 に挿入することによって、センサ棒 1 9 C を回動規制姿勢状態に支持することができる。従って、センサ棒 1 9 C の姿勢状態をセンサ棒 1 9 C の使用状況に応じて簡単に切り替えることができ、蓋体 5 2 の回動規制とその解除を簡単にすることができる。

【 0 0 4 0 】

手段 1 0 . 手段 1 ~ 9 の何れか 1 項に記載の遊技機において、前記遊技機本体は、前部が開放された箱状の筐体と、前記筐体の前部を開閉する前面扉と、前記補助タンクを前記筐体の内方に装着して前記前面扉を閉じた場合に、前記タンク本体に当接して前記遊技機本体内における前記補助タンクの前後左右及び上下の移動を規制する補助タンク移動規制手段とを有することを特徴とする遊技機。――

【 0 0 4 1 】

手段 1 0 によれば、請求項 1 0 に記載の発明によると、補助タンク 5 0 を筐体 2 の内方に装着して前面扉 3 を閉じた場合に、補助タンク移動規制手段がタンク本体 5 1 に当接して遊技機本体 4 内における補助タンク 5 0 の前後左右及び上下の移動が規制されるので、遊技機本体 4 の回収穴 2 F から手や器具等を挿入して遊技機本体 4 内における補助タンク 5 0 の位置が移動されるのを防ぎ、補助タンク 5 0 と遊技機本体 4 との間に隙間が形成されるのを防ぐことができる。従って、隙間から針金や特殊工具等の異物が挿入されるのを防ぎ、このような異物を使用した種々の不正行為を未然に防ぐことができる。

【 0 0 4 2 】

[第 1 実施の形態]

以下、本発明の第 1 実施の形態について、遊技機の一例としてスロットマシン 1 の場合を例に図面に基づいて説明する。図 1 は、スロットマシン 1 の前面扉 3 が閉じた状態を示す斜視図、図 2 は、スロットマシン 1 の前面扉 3 が開いた状態を示す斜視図、図 3 は、スロットマシン 1 の筐体 2 を正面から示す図、図 4 は、図 3 の I - I 線断面矢視図である。

【 0 0 4 3 】

スロットマシン 1 は、図 1 及び図 2 に示すように、筐体 2 と前面扉 3 とからなる正面視略矩形状の本体（遊技機本体）4 を有する。

【 0 0 4 4 】

前面扉 3 は、略平板状のフレーム 2 0 に、スタートレバー 2 6 やセクタ 9 等の種々の装置類が装着されて構成されている。フレーム 2 0 は、フレーム 2 0 の上端部から高さ方向略中央部まで下方に移行するに従って手前側に突出するように傾斜した傾斜部 2 0 A と、傾斜部 2 0 A の下端から手前側に突出してフレーム 2 0 の左右に亘って所定の高さ幅で延在する突出部 2 0 B と、突出部 2 0 B よりも奥側に後退した位置で突出部 2 0 B からフレーム 2 0 の下端部まで垂下する垂下部 2 0 C を有する。

【 0 0 4 5 】

フレーム 2 0 は、左端部の上下複数カ所がヒンジ 5（図 2 を参照）によって筐体 2 に連結されて取り付けられ、筐体 2 の前部を容易に開放及び閉塞できるようになっている。そして、フレーム 2 0 の右端部には、筐体 2 に対して前面扉 3 を閉塞して施錠状態とする施錠装置 6 と、その施錠装置 6 による施錠状態を解除して前面扉 3 を開放するためのキーシリンダ 7 が設けられている。

【 0 0 4 6 】

前面扉 3 の前面には、フレーム 2 0 に取り付けられた装置類によって、上方から下方に向かって順番に並ぶように、演出部 3 A、表示部 3 B、操作部 3 C、装飾部 3 D、払出部

３Ｅが形成されている。

【００４７】

演出部３Ａは、遊技者に対して光や音、映像を用いて演出を行う演出装置２１を有する。演出装置２１は、フレーム２０の傾斜部２０Ａに取り付けられており、遊技の進行に伴って転倒・点滅する上部ランプ２１ａと、上部ランプ２１ａの下方位置で左右両側に各々配置されて種々の効果音等を発生させる一対のスピーカ２１ｂ－１、２１ｂ－２と、これら一対のスピーカ２１ｂ－１、２１ｂ－２の間に配設されて、画像・映像等の種々の情報を表示する液晶ディスプレイ２１ｃを有する。

【００４８】

表示部３Ｂは、遊技者に遊技状態を示す表示用パネル２２を有する。表示用パネル２２は、フレーム２０の傾斜部２０Ａに開口する矩形の開口部に嵌合されて取り付けられている。表示用パネル２２の略中央位置には、透明又は半透明な材質によって表示窓２２ａが一体成形されており、その表示窓２２ａから筐体２の内方の回転リール１１ａ～１１ｃを視認できるようになっている。

【００４９】

操作部３Ｃは、表示用パネル２２の下端から手前側に向かって平面状に突出する突出部２０Ｂの上面部２０Ｂａに、ベットボタン２３とコイン投入口２４とが左右に離れて設けられている。そして、上面部２０Ｂａの手前側の端部で折曲されて垂下する突出部２０Ｂの前面部２０Ｂｂに、精算ボタン２５、回転リール１１ａ～１１ｃの回転開始を指示するためのスタートレバー２６、回転リール１１ａ～１１ｃの回転停止を支持するためのストップボタン２７等の各操作手段が横一列に並ぶように配設されている。突出部２０Ｂの前面部２０Ｂｂには各操作手段の周りをカバーするカバー部材２８が取り付けられている。カバー部材２８は、フレーム２０の突出部２０Ｂの前方で左右に亘って延在する帯板形状を有している。

【００５０】

装飾部３Ｄは、機種名や遊技に関わるキャラクタ等を表示する装飾用パネル４０を有する。装飾用パネル４０は、装飾用パネル４０の裏面側に設けられた照明装置の光源Ｐから照射される光によって照明されて、装飾が際立つようになっている。照明装置は、光源Ｐとして冷陰極管を備えており、図４に示すように、装飾用パネル４０の表示部４２とフレーム２０の垂下部２０Ｃとの間で前面扉３の左右に延在し、両端がフレーム２０に支持されている。光源Ｐは、電源の供給を受けて放射状に光を照射する。

【００５１】

装飾用パネル４０は、保護カバー４１と減光手段４４を備えている。保護カバー４１は、フレーム２０の垂下部２０Ｃの前方で上下に延在する表示部４２と、表示部４２の下端で折曲されて後方に向かって延在し、コイン受け皿３３に対向する対向部４３とが一体に形成され、透明又は半透明のプラスチックやアクリル等、硬質の合成樹脂製材料等の光透過性部材によって構成されている。

【００５２】

減光手段４４は、保護カバー４１の対向部４３の少なくとも一部を覆い、光源Ｐからコイン受け皿３３に向かって照射される光を減光する構成を有しており、対向部４３の上面に取り付けられて光源Ｐからコイン受け皿３３に向かって照射される光を遮光する遮光プレート４５と、遮光プレート４５に開口して光源Ｐからコイン受け皿３３に向かって照射される光を通過させる開口部４６と、開口部４６に脱着自在に取り付けられて開口部４６を通過する光を透過させて光量や色等を変更する透過光調整部４７によって構成されている。

【００５３】

開口部４６は、図４に示すように、光源Ｐから照射された光が通過してコイン受け皿３３を照明する位置に設けられている。開口部４６の大きさは、光源Ｐからコイン受け皿３３内を照明するのに必要で且つ遊技者が眩しくない程度の光量の光を透過させることができる大きさに設定されている。

【 0 0 5 4 】

従って、光源 P から照射された光を減光手段 4 4 で減光して、コイン受け皿 3 3 に照射される光の光量を調整することができ、適切な光量の光でコイン受け皿 3 3 を照明でき、遊技者にとって眩しすぎず、且つ、コイン受け皿 3 3 上のコインの存否確認を容易ならしめ、コイン受け皿 3 3 上のコインの取り忘れを防ぐことができる。

【 0 0 5 5 】

特に、コイン受け皿 3 3 の底板部 3 3 A の強度を補強するために底板部 3 3 A の底面に金属製の板部材が敷設されて、上方からの光を反射し易い構造となっている場合には、減光手段 4 4 によって適切な光量に減光することにより、遊技者が眩しく感じるのを有効に防ぐことができる。

【 0 0 5 6 】

そして、保護カバー 4 1 の表示部 4 2 と対向部 4 3 が一体に形成されているので、光を透過させるための開口部等を保護カバー 4 1 に開ける必要がない。従って、針金等の棒状の異物が保護カバー 4 1 を貫通して挿入されるおそれがなく、スロットマシン 1 の設定状態を不正に変更する等の不正行為を有効に防ぐことができる。

【 0 0 5 7 】

払出部 3 E は、コイン払出口 3 1 や演出用スピーカ 3 2 L、3 2 R、コイン受け皿 3 3 等を有する。コイン払出口 3 1 は、図 1 に示すように、フレーム 2 0 の左右方向略中央位置に開口形成されており、排出用通路 8 (図 2 を参照) の下流端が連通して接続されている。演出用スピーカ 3 2 L、3 2 R は、コイン払出口 3 1 の左右方向両側に位置するように前面扉 3 のフレーム 2 0 に取り付けられている。

【 0 0 5 8 】

コイン受け皿 3 3 は、コイン受け皿取付板 3 0 を介してフレーム 2 0 に取り付けられている。コイン受け皿取付板 3 0 は、一枚の平板状の金属板によって構成されており、フレーム 2 0 の垂下部 2 0 C に重ね合わせるように取り付けられて、前面扉 3 の左右に亘って延在し、左右の演出用スピーカ 3 2 L、3 2 R の前面を覆っている。

【 0 0 5 9 】

コイン受け皿取付板 3 0 の略中央には、フレーム 2 0 のコイン払出口 3 1 の位置に対応してコイン出口 3 0 a が開口形成されており、コイン払出口 3 1 からコイン受け皿 3 3 にコインが排出されるようになっている。また、コイン受け皿取付板 3 0 の左右両側には、演出用スピーカ 3 2 L、3 2 R の位置に対応して複数の小孔 3 0 b がメッシュ状に形成されて、演出用スピーカ 3 2 L、3 2 R からの音声等が前面扉 3 の前方である手前側に向かって発せられるようになっている。

【 0 0 6 0 】

コイン受け皿 3 3 は、フレーム 2 0 の垂下部 2 0 C から手前側に突出して前面扉 3 の左右に延在するように取り付けられている。コイン受け皿 3 3 は、コイン払出口 3 1 よりも下方位置で底面が左右に広がる底板部 3 3 A と、底板部 3 3 A の外端縁に沿って設けられて底面から上方に延出する縦壁部 3 3 B を有し、コイン受け皿取付板 3 0 に取り付けられた場合に、縦壁部 3 3 B とコイン受け皿取付板 3 0 との間に囲まれて上方が開放された所定枚数のコインを貯留可能な貯留空間を形成する構成を有する。

【 0 0 6 1 】

縦壁部 3 3 B は、コイン受け皿取付板 3 0 から手前側に向かって延出するように基端がコイン受け皿取付板 3 0 に固定される左右一对の側面壁部 3 3 B a、3 3 B b と、コイン受け皿取付板 3 0 に沿って左右に延在するように一对の側面壁部 3 3 B a、3 3 B b の先端間を連結してコイン払出口 3 1 に対向配置される正面壁部 3 3 B c を有する。

【 0 0 6 2 】

左側面壁部 3 3 B a は、前面扉 3 の左端部よりも内方に位置し、前面扉 3 の左端部と左側面壁部 3 3 B a との間には灰皿 3 3 C が配設されている。右側面壁部 3 3 B b は、前面扉 3 の右端部に沿って位置し、コイン受け皿取付板 3 0 から手前側に向かって移行するにしたがって右側面壁部 3 3 B b の上端が漸次下方に移行し、正面壁部 3 3 B c の上端に滑

らかに連続している。

【 0 0 6 3 】

筐体 2 は、スロットマシン 1 の骨格をなす部材であり、天板 2 A、底板 2 B、背板 2 C、左側板 2 D、右側板 2 E からなり、図 2 に示すように、前部が開放された箱形状を有している。

【 0 0 6 4 】

筐体 2 の内方の略中央高さ位置には、リールユニット 1 1 が配設されている。リールユニット 1 1 は、複数個の回転リール 1 1 a ~ 1 1 c を有している。各回転リール 1 1 a ~ 1 1 c は、その回転中心軸線が筐体 2 の横幅方向に同一軸線上に延びるように配置されており、表示窓 2 2 a から回転リール 1 1 a ~ 1 1 c の表面を視認できるようになっている。

【 0 0 6 5 】

回転リール 1 1 a ~ 1 1 c の表面には、周回方向に所定間隔をおいて複数種類の図柄が表示されており、表示窓 2 2 a から上下に 3 つの図柄が視認できるように配置されている。そして、リール 1 1 a ~ 1 1 c の正転により、各表示窓 2 2 a には各種図柄が上から下に移動しているように映し出される。

【 0 0 6 6 】

各リール 1 1 a ~ 1 1 c は、個々にステッピングモータ（図示せず）に連結されており、各ステッピングモータにより別個独立して回転駆動され、リール表面の図柄が表示窓 2 2 a から視認可能な位置に停止される。

【 0 0 6 7 】

筐体 2 の内方の上部位置には、主基板ユニット 1 2 が配設されている。主基板ユニット 1 2 は、スロットマシン 1 の遊技動作を制御するメイン制御基板が制御基板収納ボックス内に収容された状態で、台座装置によって筐体 2 の背板 2 c に取付支持されている。

【 0 0 6 8 】

筐体 2 の内方の下部位置には、電源ボックス 1 3 とコイン払出手段 1 4 と補助タンク 5 0 が左右に並んで配置されている。電源ボックス 1 3 は、筐体 2 の左側板 2 D に沿って設けられており、開閉扉 1 3 a を開くことで露出される正面部には、電源スイッチ、リセットスイッチ、設定キー挿入孔（いずれも図示せず）が設けられている。電源スイッチは、主制御装置等を始めとする各部に電源を供給するための起動スイッチである。

【 0 0 6 9 】

リセットスイッチは、スロットマシンの各種状態をリセットするためのスイッチである。本スロットマシン 1 は、各種データのバックアップ機能を有しており、万一停電が発生した際でも停電時の状態を保持し、停電からの復旧（復電）の際には停電時の状態に復帰できるようになっている。したがって、例えば遊技ホールの営業が終了する場合のように通常手順で電源を遮断すると遮断前の状態が記憶保持されるが、リセットスイッチを押しながら電源スイッチをオンすると、バックアップデータがリセットされるようになっている。また、電源スイッチがオンされている状態でリセットスイッチを押した場合には、エラー状態がリセットされる。

【 0 0 7 0 】

設定キー挿入孔は、ホール管理者などがコインの出玉調整を行うためのものである。すなわち、ホール管理者等が設定キーを設定キー挿入孔へ挿入して操作することにより、スロットマシン 1 の設定状態（当選確率設定処理）を「設定 1」から「設定 6」まで変更できるようになっている。

【 0 0 7 1 】

コイン払出手段 1 4 は、図示していないスライド機構を介して筐体 2 の底板 2 B の上面に取り付けられており、前面扉 3 を開放した状態で筐体 2 の内方から前方に向かって引き出すことができるようになっている。

【 0 0 7 2 】

コイン払出手段 1 4 は、コインを貯留するホッパ 1 5 と、ホッパ 1 5 内のコインをコイ

ン受け皿 33 に払い出す払出装置 16 と、ホッパ 15 から溢れたコインをホッパ 15 の外に排出するコイン排出口 18 等を備えている。そして、底板 2B の上面に払出装置 16 がスライド移動可能に支持され、払出装置 16 の上部にホッパ 15 が取り付けられ、ホッパ 15 にコイン排出口 18 が形成されている。

【0073】

払出装置 16 は、モータ等の駆動手段により回転体を回転させて（いずれも図示せず）、ホッパ 15 内のコインを払出口 16a から払い出して排出用通路 8 に流入させる構成を有する。ホッパ 15 は、筐体 2 の上下方向に延在する平面視略矩形の胴部 15A と、胴部 15A の下端部を閉塞する底部 15B とからなる有底筒状をなす。胴部 15A は、左壁部 15Ac と右壁部 15Ad とが筐体 2 の左側板 2D、右側板 2E と平行に延在し、後壁部 15Ab が筐体 2 の背板 2C に沿って延在し、前壁部 15Aa が筐体 2 の前部で左右に延在するように配置される。

【0074】

そして、胴部 15A の上端部は、上方に向かって開放されており、ホッパ 15 内にコインが投入される投入口 17 が形成されている。底部 15B は、互いに対向して下方に移行するにしたがって漸次接近するように傾斜した左右一对の傾斜部 15Ba、15Bb を有している。これら左右一对の傾斜部 15Ba、15Bb のうち、図 3 で左側に示される傾斜部 15Ba には、払出装置 16 にコインを供給する供給口が形成されている。

【0075】

そして、図 3 で右側に示される傾斜部 15Bb は、払出装置 16 よりも筐体 2 の右側板 2E 側に突出し、底板 2B の上面と対向している。コイン排出口 18 は、補助タンク 50 の上方に位置し、ホッパ 15 から溢れてコイン排出口 18 から排出されたコインを補助タンク 50 内に流入させることができるように、胴部 15A の右壁部 15Ad に形成されている。

【0076】

補助タンク 50 は、筐体 2 の内方に装着され、前面扉 3 を開放した状態で筐体 2 の内方から前方に向かって引き出すことができるように、筐体 2 の底板 2B の上面に載せた状態で収容される。筐体 2 の底板 2B には、補助タンク 50 に収容したコインを筐体 2 の下方に位置する自動回収装置に供給するためのコイン回収穴 2F が開口形成されている。

【0077】

補助タンク 50 は、コイン排出口 18 から排出されたコインを貯留する手動回収と、コインを通過させて自動回収装置（図示せず）によって回収させる自動回収の両方に対応可能な構成を有する。

【0078】

補助タンク 50 は、タンク本体 51 と、蓋体 52 によって構成されている。タンク本体 51 は、上部が開放された有底の箱形状を有しており、タンク本体 51 の底壁部 101 には、開口穴 53 が形成されている。開口穴 53 は、補助タンク 50 が筐体 2 の内方に装着された状態で、筐体 2 の底板 2B に開口するコイン回収穴 2F と連通する位置に形成されている。

【0079】

蓋体 52 は、タンク本体 51 の内方でタンク本体 51 に回動自在に支持されて、開口穴 53 を閉塞する閉塞位置と、開口穴 53 を開放する開放位置のいずれか一方に選択的に配置可能な構成を有する。

【0080】

補助タンク 50 は、蓋体 52 を閉塞位置に配置して開口穴 53 を閉塞した状態で筐体 2 の内方に装着することにより、ホッパ 15 から溢れて補助タンク 50 内に流入したコインを貯留することができ、また、蓋体 52 を開放位置に配置して開口穴 53 を開放した状態で筐体 2 の内方に装着することにより、ホッパ 15 から溢れたコインを、補助タンク 50 の開口穴 53 及び開口穴 53 に連通して筐体 2 の底板 2B に開口するコイン回収穴 2F を通過させて、筐体 2 の下方に位置する自動回収装置に供給し、自動回収装置によって回収

させることができるようになっている。

【0081】

また、補助タンク50は、蓋体52を開放位置と閉塞位置との中間の予め設定された傾斜角度位置に配置して取り外し方向に移動させた場合に、蓋体52のタンク本体51への支持を解除して蓋体52をタンク本体51から取り外し可能な構成を有する。

【0082】

筐体2の内方には、コイン貯留状態検出手段のセンサ棒19A、19Bが取り付けられている。センサ棒19A、19Bは、図4に示すように、互いに上下に離間して対をなし、それぞれ筐体2の背板2Cに基端が固定されており、前方に向かって平行に延在している。

【0083】

各センサ棒19A、19Bは、導電性を有する金属材料からなり、補助タンク50を筐体2の内方に装着することによってタンク本体51内に挿入され、タンク本体51の内方の前後方向略中央位置まで延出する長さを有する。

【0084】

そして、導電性のコインが補助タンク50に貯留されて一対のセンサ棒19A、19Bの間に介在されると、互いに導通し、図示していないコイン貯留状態検出手段によって補助タンク50内のコインが満杯であるとの判断されるようになっている。

【0085】

次に、補助タンク50の構成について詳細に説明する。図5は、補助タンク50の開口部53が蓋体52によって閉塞された状態を示す補助タンク50の斜視図、図6は、補助タンク50の開口部53が開放された状態を示す補助タンク50の斜視図、図7は、補助タンク50の平面図、図8は、図7のII-II線断面矢視図、図9は、蓋体52を示す斜視図、図10は、蓋体52の側面図、図11は、蓋体52をタンク本体51に取り付ける取付方法を説明する図、図12は、蓋体52の支持状態を説明する図、図13は、図5のIII-III線断面矢視図、図14は、図7のIV-IV線断面矢視図、図15は、図6のV-V線断面矢視図である。

【0086】

補助タンク50のタンク本体51は、図5～図8に示すように、平面視略矩形状の底壁部101と、底壁部101の周りを囲うように底壁部101から起立する前壁部102、後壁部103、左側壁部104、右側壁部105を有する。

【0087】

前壁部102と後壁部103は、底壁部101の前後でそれぞれ上方に向かって折曲されて互に対向し、左側壁部104と右側壁部105は、底壁部101の両側端部でそれぞれ上方に向かって折曲されて対向する。

【0088】

そして、タンク本体51の上部には、上方に向かって開口する矩形の開口部54が形成されている。開口部54は、前壁部102の上端部でタンク本体51の左右方向に延在する前端縁部102a、右側壁部105の上端部でタンク本体51の前後方向に延在する右端縁部105a、後壁部103の上端部でタンク本体51の左右方向に延在する後端縁部103a、左側壁部104の上端部でタンク本体51の前後方向に延在する左端縁部104aを有しており、平面視略矩形の開口形状を有する。

【0089】

そして、筐体2の内方で、開口部54の前端縁部102aが筐体2の前部開口部分に沿って筐体2の左右方向に延在し、右端縁部105aが右側板2Eに沿って筐体2の前後方向に延在し、後端縁部103aが背板2Cに沿って筐体2の左右方向に延在し、左端縁部104aがコイン払出手段14に沿って筐体2の前後方向に延在する。

【0090】

タンク本体51は、図3及び図4に示すように、筐体2の内方に装着した場合に、コイン払出手段14と筐体2の右側板2Eとの間に形成されたスペースに収容されてコイン払

出手段 14 のコイン排出口 18 の下方に配置される。

【0091】

そして、タンク本体 51 の左側壁部 104 がホッパ 15 に対向してタンク本体 51 の上側及び左側への移動が規制され、同時に、タンク本体 51 の右側壁部 105 が筐体 2 の右側板 2E に対向してタンク本体 51 の左右への移動が規制され、更に、タンク本体 51 の後壁部 103 が筐体 2 の背板 2C に対向してタンク本体 51 の後方への移動が規制される。そして、前面扉 3 を閉じた場合に、タンク本体 51 の前壁部 102 が前面扉 3 のスピーカ 32R に対向して、タンク本体 51 の前方への移動が規制される。

【0092】

従って、タンク本体 51 に当接してスロットマシン 1 の本体 4 内における補助タンク 50 の前後左右及び上下の移動を規制する補助タンク移動規制手段が構成され、本体 4 内における補助タンク 50 の位置が変更されるのを防止できる。

【0093】

タンク本体 51 の底壁部 101 は、図 5 ～ 図 8 に示すように、前壁部 102 の下端から後方に移行するに従って漸次下方に移行する傾斜面部 111 と、傾斜面部 111 の後側で水平に延在して筐体 2 の底板 2B の上面に接面する水平面部 121 を有している。

【0094】

傾斜面部 111 の上面には、複数の凸条部 112 が設けられている。凸条部 112 は、傾斜面部 111 の強度を補強するものであり、上方から落下してきたコインが衝突した場合に、傾斜面部 111 の上面に傷が付いたり傾斜面部 111 が破損するのを防止している。各凸条部 112 は、左右に所定間隔をおいて前後に延在するように配設されている。

【0095】

傾斜面部 111 の下面には、前壁部 102 の下端と水平面部 121 の前端との間を緩やかな円弧曲線で結ぶ凸状に形成された複数枚のリブ 113 が突設されており、補助タンク 50 を筐体 2 の内方から前方に引き出す際に、引っ掛かることなく円滑に引き出すことができる。

【0096】

タンク本体 51 の開口穴 53 は、水平面部 121 の中央に形成されており、コイン回収穴 2F の形状に沿うように平面視略矩形状をなし、開口穴 53 の周りに水平面部 121 の上面 121a が所定幅で連続する大きさを有する。水平面部 121 は、蓋体 52 を水平面部 121 の上面 121a に重ねて閉塞位置に配置した場合に、蓋体 52 の下面 201b と水平面部 121 の上面 121a とが開口穴 53 の周りに周状に連続して対向して接面する形状を有する。

【0097】

水平面部 121 の左側端部には、蓋体 52 を回動自在に支持する支持手段 56 が設けられている。支持手段 56 は、蓋体 52 を閉塞位置と開放位置との中間の予め設定された傾斜角度位置に配置してタンク本体 51 に対して上方に移動させた場合に、支持を解除して蓋体 52 を取り外すことが可能な構成を有する。

【0098】

支持手段 56 は、水平面部 121 の前部に形成されて蓋体 52 の前側支持軸（第 1 支持軸）212 を回轉自在に支持する前側支持部（第 1 支持部）131 と、水平面部 121 の後部に形成されて蓋体 52 の後側支持軸（第 2 支持軸）213 を回轉自在に支持する後側支持部（第 2 支持部）134 と、水平面部 121 の前後方向中間位置に形成されて蓋体 52 の中間支持軸 214 を回轉自在に支持する中間支持部 137 とを有する。

【0099】

前側支持部 131 は、水平面部 121 から上方に向かって突出する突起部 132 と、突起部 132 の後面に開口してタンク本体 51 の前方に向かって延在する孔部 133 によって構成される。孔部 133 は、蓋体 52 の前側支持軸 213 を挿入可能な内径を有し、挿入された前側支持軸 212 が回轉自在に支持される。

【0100】

後側支持部 1 3 4 は、後側支持軸 2 1 3 を回転自在に支持する構成を有する。そして、後側支持部 1 3 4 には、上方に向かって開口し、蓋体 5 2 を所定の傾斜角度位置に配置して上方に移動させた場合に後側支持軸 2 1 3 を通過させて後側支持部 1 3 4 からの取り外しを可能とするスリット部 1 3 4 a が形成されている。

【0101】

後側支持部 1 3 4 は、図 1 1 及び図 1 2 に示すように、左側壁部 1 0 4 との間に所定の間隙を開けて水平面部 1 2 1 から上方に起立するリブ 1 3 5 と、リブ 1 3 5 の上端に対向して左側壁部 1 0 4 から突出する爪部 1 3 6 を有する。

【0102】

リブ 1 3 5 は、図 1 2 に示すように、水平面部 1 2 1 からほぼ垂直に突出する腕部 1 3 5 a と、腕部 1 3 5 a の上端から左側壁部 1 0 4 の爪部 1 3 6 側に向かって突出する爪部 1 3 5 b を有する。腕部 1 3 5 a は、左側壁部 1 0 4 との間に後側支持軸 2 1 3 の外径よりも若干広い間隔を有して対向し、後側支持軸 2 1 3 の外径よりも高い高さ位置まで突出している。爪部 1 3 5 b は、爪部 1 3 5 b と爪部 1 3 6 との間隔が、後側支持軸 2 1 3 の外径よりも狭く且つ後側支持軸 2 1 3 の一對の平坦面 2 1 3 a、2 1 3 b の間隔とほぼ同一若しくは若干広い間隔となるように形成されている。スリット部 1 3 4 a は、爪部 1 3 5 b と爪部 1 3 6 との間に形成されている。

【0103】

中間支持部 1 3 7 は、中間支持軸 2 1 4 を回転自在に支持する構成を有する。中間支持部 1 3 7 には、上方に向かって開口し、蓋体 5 2 を所定の傾斜角度位置に配置して上方に移動させた場合に中間支持軸 2 1 4 を通過させて中間支持部 1 3 7 からの取り外しを可能とするスリット部 1 3 7 a が形成されている。

【0104】

中間支持部 1 3 7 は、後側支持部 1 3 4 と同一形状のリブ 1 3 8 と爪部 1 3 9 を有する。リブ 1 3 8 は、水平面部 1 2 1 からほぼ垂直に突出する腕部 1 3 8 a と、腕部 1 3 8 a の上端から左側壁部 1 0 4 の爪部 1 3 9 側に向かって突出する爪部 1 3 8 b を有する。腕部 1 3 8 a は、蓋体 5 2 の中間支持軸 2 1 4 の外径よりも広い間隔で左側壁部 1 0 4 と対向し、中間支持軸 2 1 4 の外径よりも高い高さ位置まで突出している。爪部 1 3 8 b は、爪部 1 3 8 b と爪部 1 3 9 との間隔が、中間支持軸 2 1 4 の外径よりも狭く且つ中間支持軸 2 1 4 の一對の平坦面 2 1 4 a、2 1 4 b の間隔とほぼ同一若しくは若干広い間隔となるように形成されている。スリット部 1 3 7 a は、爪部 1 3 8 b と爪部 1 3 9 との間に形成されている。

【0105】

水平面部 1 2 1 の右側端部には、蓋体 5 2 を水平面部 1 2 1 の上に重ねて開口穴 5 3 を閉塞する位置である閉塞位置に配置した場合に、蓋体 5 2 の前側凸部 2 0 5 が挿入されて係止される前側閉塞係止穴 1 2 3 と、蓋体 5 2 の後側凸部 2 0 6 が挿入されて係止される後側閉塞係止穴 1 2 5 が設けられている。

【0106】

前側閉塞係止穴 1 2 3 は、閉塞位置に配置された蓋体 5 2 の前端面 2 0 1 c と対向する前側対向面 1 2 2 に凹設されている。前側対向面 1 2 2 は、水平面部 1 2 1 の前部で左右に延在して前方から後方に向かって段状に下がる形状を有する。

【0107】

後側閉塞係止穴 1 2 5 は、閉塞位置に配置された蓋体 5 2 の後端面 2 0 1 d と対向する後側対向面 1 2 4 に凹設されている。後側対向面 1 2 4 は、水平面部 1 2 1 の後部で左右に延在して前方から後方に向かって段状に上がる形状を有する。

【0108】

タンク本体 5 1 の左側壁部 1 0 4 には、蓋体 5 2 を左側壁部 1 0 4 に沿って起立させて開口穴 5 3 を開放する位置である開放位置に配置した場合に、蓋体 5 2 の前側凸部 2 0 5 が挿入されて係止される前側開放係止穴 1 4 2 と、蓋体 5 2 の後側凸部 2 0 6 が挿入されて係止される後側開放係止穴 1 4 4 が設けられている。

【 0 1 0 9 】

前側開放係止穴 1 4 2 は、開放位置に配置された蓋体 5 2 の前端面 2 0 1 c と対向する前側対向面 1 4 1 に凹設されている。前側対向面 1 4 1 は、左側壁部 1 0 4 の前部で上下に延在し、タンク本体 5 1 の横幅方向外側から横幅方向中央に向かって段状に突出する形状を有する。

【 0 1 1 0 】

後側開放係止穴 1 4 4 は、開放位置に配置された蓋体 5 2 の後端面 2 0 1 d と対向する後側対向面 1 4 3 に凹設されている。後側対向面 1 4 3 は、左側壁部 1 0 4 の後部で上下に延在し、タンク本体 5 1 の横幅方向外側から横幅方向中央に向かって段状に突出する形状を有する。

【 0 1 1 1 】

タンク本体 5 1 の左側壁部 1 0 4 及び右側壁部 1 0 5 は、タンク本体 5 1 の前後方向中間部分の方が前端部分及び後端部分よりも横幅方向外側に若干膨らむように、湾曲して形成されている。これにより、コインの重さに対するタンク本体 5 1 の強度を向上させると共に、横幅方向内側へのソリが防止されている。

【 0 1 1 2 】

タンク本体 5 1 の前壁部 1 0 2 は、開口部 5 4 の前端縁部 1 0 2 a を上端とし、開口部 5 4 の前端縁部 1 0 2 a から下方に延出する上前壁部 1 5 1 と、その上前壁部 1 5 1 の下端で折曲されて引き出し方向後側に水平に延在する中前壁部 1 5 2 と、中前壁部 1 5 2 の後端から下方に延出して底壁部 1 0 1 の前端に連結される下前壁部 1 5 3 を備える。

【 0 1 1 3 】

そして、前壁部 1 0 2 には、引掛部 5 5 が一体に形成されている。引掛部 5 5 は、上前壁部 1 5 1 の下端から下方に突出し、下前壁部 1 5 3 の前方に対向して、下前壁部 1 5 3 との間に指先を下方から挿入可能な間隙を形成する垂下片 1 5 4 と、垂下片 1 5 4 の両側端部で後方に向かって折曲されて下前壁部 1 5 3 の左右の側端部に接続される側壁 1 5 5 を有する。

【 0 1 1 4 】

垂下片 1 5 4 の長さは、下方から挿入した指先が第 1 関節くらいまで入り込む深さとなるように設定されている。側壁 1 5 5 は、垂下片 1 5 4 の両側端部と下前壁部 1 5 3 の両側端部との間をそれぞれ連結して、引掛部 5 5 のタンク本体 5 1 への取り付け剛性を向上させている。

【 0 1 1 5 】

引掛部 5 5 は、垂下片 1 5 4 と下前壁部 1 5 3 との間に下方から指先を挿入してタンク本体 5 1 を筐体 2 の前方に引き出すことができる。そして、筐体 2 の内方から取り出した際に、指先が垂下片 1 5 4 と下前壁部 1 5 3 との間に挿入されているので、補助タンク 5 0 を安定して持つことができる。従って、補助タンク 5 0 を筐体 2 の内方から前方に引き出して持ち上げるという一連の作業を連続して円滑に行うことができる。

【 0 1 1 6 】

また、前壁部 1 0 2 の中前壁部 1 5 2 と下前壁部 1 5 3 が、開口部 5 4 の前端縁部 1 0 2 a よりも引き出し方向後側に後退して開口部 5 4 の内方に位置するように設けられているので、開口部 5 4 の前端縁部 1 0 2 a をタンク本体 5 1 の前側位置に配置することができる。

【 0 1 1 7 】

従って、引掛部 5 5 を設けていながらも、開口部 5 4 の前端縁部 1 0 2 a を引き出し方向前側に配置でき、筐体 2 の内方の限られた空間内で開口部 5 4 の開口面積をより広く確保することができる。

【 0 1 1 8 】

従って、例えばホール従業員等によってホッパ 1 5 から補助タンク 5 0 にコインを掻き出す作業が行われた場合に、コイン排出口 1 8 から排出されたコインを、筐体 2 から外部に飛び出させることなく、開口部 5 4 から補助タンク 5 0 のタンク本体 5 1 内にスムーズ

に回収することができ、ホッパ 15 から補助タンク 50 へのコインの移動作業を迅速かつ容易に行わせることができる。

【0119】

タンク本体 51 の後壁部 103 には、センサ挿入部 57 が形成されている。センサ挿入部 57 は、補助タンク 50 を手動回収用として使用する場合に、筐体 2 に設けられた補助タンク 50 内のコインの貯留状態を検出するコイン貯留状態検出手段のセンサ棒 19A、19B が挿入される。

【0120】

センサ挿入部 57 は、後壁部 103 の左右方向略中央位置に設けられており、後壁部 103 の上部位置に形成された第 1 センサ挿入穴 161 と、後壁部 103 の下部位置に形成された第 2 センサ挿入穴 162 を有する。

【0121】

第 2 センサ挿入穴 162 は、第 2 センサ挿入穴 162 に挿入されたセンサ棒 19B がタンク本体 51 の内方で蓋体 52 の回動軌跡の途中位置に介在されて、蓋体 52 を閉塞位置から開放側へ移動させた場合に蓋体 52 をセンサ棒 19B に当接させて蓋体 52 の開放側への回動を規制する位置に開口形成されている。

【0122】

このように、センサ棒 19A、19B が高さ位置を変えて上下に配置されているので、上側のセンサ棒 19A の高さ位置がコイン満杯時の検出位置とし、センサ棒 19B が蓋体 52 の開放側への回動を規制するのに用いることができ、センサ棒 19A、19B を有効に利用することができる。

【0123】

蓋体 52 は、例えば図 9 及び図 10 に示すように、平板部 201 と軸部 211 を有する。平板部 201 は、閉塞位置に配置された場合に、平板部 201 の下面 201b と水平面部 121 の上面 121a とが開口穴 53 の周りに周状に連続して対向して接面し、タンク本体 51 の開口穴 53 を閉塞する平板形状を有する。

【0124】

平板部 201 の基端側には、前側支持部 131 の突起部 132 との干渉を避けるための前側切欠部 202 が軸部 211 の前側支持軸 212 に沿って切欠形成され、また、後側支持部 134 のリブ 135 との干渉を避けるための後側切欠部 203 が軸部 211 の後側支持軸 213 に沿って切欠形成されている。そして、中間支持部 137 のリブ 138 との干渉を避けるための開口部 204 が軸部 211 の中間支持軸 214 に沿って開口形成されている。

【0125】

平板部 201 の先端側には、前側凸部 205 と後側凸部 206 が設けられている。前側凸部 205 は、平板部 201 の前端面 201c から蓋体 52 の回動中心軸線が延在する方向と同方向である平板部 201 の長手方向に沿って突出し、蓋体 52 を閉塞位置に配置した場合に、前側閉塞係止穴 123 に挿入されて、蓋体 52 が閉塞位置から開放位置側に向かって回動しないように係止される。そして、蓋体 52 を開放位置に配置した場合に、前側開放係止穴 142 に挿入されて、蓋体 52 が開放位置から閉塞位置側に向かって回動しないように係止される。

【0126】

後側凸部 206 は、平板部 201 の後端面 201d から蓋体 52 の回動中心軸線が延在する方向と同方向である平板部 201 の長手方向に沿って突出し、蓋体 52 を閉塞位置に配置した場合に、後側閉塞係止穴 125 に挿入されて（例えば図 14 を参照）、蓋体 52 が閉塞位置から開放位置側に向かって回動しないように係止される。そして、蓋体 52 を開放位置に配置した場合に、後側開放係止穴 144 に挿入されて（例えば図 15 を参照）、蓋体 52 が開放位置から閉塞位置側に向かって回動しないように係止される。

【0127】

これらの前側凸部 205 と後側凸部 206、及び、前側閉塞係止穴 123 と後側閉塞係

止穴１２５によって、蓋体５２を閉塞位置に保持する閉塞位置保持手段が構成され、前側凸部２０５と後側凸部２０６、及び、前側開放係止穴１４２と後側開放係止穴１４４によって、蓋体５２を開放位置に保持する開放位置保持手段が構成される。

【０１２８】

従って、蓋体５２を閉塞位置に保持することができ、例えば補助タンク５０を手動回収用として使用中に、補助タンク５０内のコインを取り出すべく補助タンク５０を遊技機本体４から取り出して上下逆さにしたときに、開口穴５３の閉塞状態を維持できる。また、手動回収用として使用中に、コインが衝突した衝撃等によって、蓋体５２が移動して弾みで開口穴５３が開放されるのを防ぐことができ、補助タンク５０を筐体２から取り出した際に、補助タンク５０内のコインが開口穴５３から漏れ出るのを防ぐことができる。また、スロットマシン１の搬送時に、蓋体５２が閉塞位置から開放側に回動して開口穴５３が開放されるのを防ぐことができ、筐体２のコイン回収穴２Ｆから補助タンク５０の開口穴５３を通して筐体２の内部にゴミなどの異物が侵入するのを防ぐことができる。

【０１２９】

また、蓋体５２を開放位置に保持することができ、例えば補助タンク５０を自動回収用として使用中に、コインが衝突した衝撃等によって蓋体５２が開放位置から閉塞位置に移動して開口穴５３を閉塞するのを防ぐことができ、補助タンク５０内にコインが詰まるのを防ぐことができる。

【０１３０】

前側凸部２０５と後側凸部２０６は、閉塞位置では前側閉塞係止穴１２３と後側閉塞係止穴１２５に挿入され、開放位置では前側開放係止穴１４２と後側開放係止穴１４４に挿入されており、閉塞位置と開放位置のいずれにおいても、タンク本体５１の内方にて露出することはない。従って、コインの衝突による前側凸部２０５や後側凸部２０６の破損を防ぐことができ、開放位置保持手段又は閉塞位置保持手段による蓋体５２の良好な保持を確保することができる。

【０１３１】

平板部２０１の上面２０１ａには、複数の小リブ２０７が突設されている。複数の小リブ２０７は、図９に示すように、上面２０１ａの先端側にてコインの外径よりも小さい間隔で平板部２０１の長手方向に一系列に配設されている。これら複数の小リブ２０７は、蓋体５２を開放位置に保持させた場合に、タンク本体５１の左側壁部１０４と平板部２０１の上面２０１ａとの間に侵入しようとするコインと当接して、かかる隙間へのコインの侵入を防ぎ、蓋体５２の開放位置への保持がコインによって解除されるのを防ぐことができる。

【０１３２】

また、これら複数の小リブ２０７を設けることによって、開放位置に保持された蓋体５２の平板部２０１とタンク本体５１の左側壁部１０４との間に形成される間隙の大きさを、より広く確保することができる。

【０１３３】

従って、蓋体５２を開放位置に保持させる場合に、平板部２０１の先端部の前後方向中央位置を押して前側凸部２０５を前側対向面１４１に当接させ且つ後側凸部２０６を後側対向面１４３に当接させて、平板部２０１全体を弓なりに撓ませることができ、前側凸部２０５と後側凸部２０６を前側開放係止穴１４２と後側開放係止穴１４４に容易に挿入させることができ、蓋体５２を閉塞位置に保持させる作業を容易なものとするすることができる。

【０１３４】

また、蓋体５２の開放位置への保持を解除する場合には、平板部２０１の上面２０１ａに凹設された凹部２０１ｅとタンク本体５１の左側壁部１０４との間に指先を挿入して閉塞方向に向かって付勢することができる。従って、前側凸部２０５を前側開放係止穴１４２から脱出させ、且つ後側凸部２０６を後側開放係止穴１４４から脱出させることができ、蓋体５２の保持を解除する作業を容易なものとするすることができる。

【 0 1 3 5 】

尚、本実施の形態では、平板部 2 0 1 の上面に複数の小リブ 2 0 7 を設けて、開放位置に保持された平板部 2 0 1 の上面 2 0 1 a とタンク本体 5 1 の左側壁部 1 0 4 との間に所定の隙間を積極的に形成すると共に、かかる隙間へのコインの侵入を防止する構成としたが、これに限定されるものではなく、他の構成を採用してもよい。例えば、小リブ 2 0 7 を省略し、開放位置に保持された平板部 2 0 1 の上面 2 0 1 a とタンク本体 5 1 の左側壁部 1 0 4 とを隙間なく接面させて、コインの侵入を阻止すると共に、左側壁部 1 0 4 のうち、開放位置に保持された平板部 2 0 1 に対向する箇所に閉操作用の窓孔を開口形成し、その窓孔から指を挿入して、蓋体 5 2 を閉塞位置から開放位置側に向かって押し移動させる構成としてもよい。

【 0 1 3 6 】

平板部 2 0 1 の下面には、図 6 に示すように、複数の凸条部 2 0 8 が設けられている。各凸条部 2 0 8 は、平板部 2 0 1 の長手方向に亘って延在し且つ平板部 2 0 1 の横幅方向に所定間隔をおいて互いに並行に延在するように形成されており、平板部 2 0 1 の強度を補強している。

【 0 1 3 7 】

軸部 2 1 1 は、平板部 2 0 1 の基端側にて平板部 2 0 1 と一体に形成されており、蓋体 5 2 の回動中心軸線と同軸上で且つ前側対向面 1 4 1 と後側対向面 1 4 3 との間に亘る長さで一直線上に延在し、軸部 2 1 1 の両端位置に前側支持軸 2 1 2 と後側支持軸 2 1 3 が形成され、軸方向中間位置に中間支持軸 2 1 4 が形成されている。

【 0 1 3 8 】

前側支持軸 2 1 2 は、前側支持部 1 3 1 に回転自在に支持される構成を有しており、本実施の形態では、一定径で延在する丸棒形状を有し、前側支持部 1 3 1 の後側から前側支持部 1 3 1 の孔部 1 3 3 に挿入されて、前側支持部 1 3 1 に回転自在に支持されている。

【 0 1 3 9 】

後側支持軸 2 1 3 は、リブ 1 3 5 の腕部 1 3 5 a と左側壁部 1 0 4 との間で回転自在に支持され、蓋体 5 2 を所定の傾斜角度位置に配置した場合にのみ、後側支持部 1 3 4 から取り外すことができ、その他の角度位置、例えば閉塞位置や開放位置では後側支持部 1 3 4 からの取り外しが阻止されるように構成されている。

【 0 1 4 0 】

後側支持軸 2 1 3 は、蓋体 5 2 を所定の傾斜角度位置に配置した場合にスリット部 1 3 4 a に対して径方向幅が狭く、蓋体 5 2 を傾斜角度位置以外の角度位置に配置した場合にスリット部 1 3 4 a に対して径方向幅が広い断面形状を有し、蓋体 5 2 を傾斜角度位置に配置して取り外し方向に移動させた場合にスリット部 1 3 4 a を通過させて後側支持部 1 3 4 から取り外し可能な構成を有する。

【 0 1 4 1 】

後側支持軸 2 1 3 は、本実施の形態では、前側支持軸 2 1 2 と同一の外径を有する丸棒の一部を平面状に面取りした形状を有しており、互いに平行な一対の平坦面 2 1 3 a、2 1 3 b と、各平坦面 2 1 3 a、2 1 3 b の間を連結する断面円弧状の摺動面 2 1 3 c を有する。

【 0 1 4 2 】

一対の平坦面 2 1 3 a、2 1 3 b は、図 1 2 (a) に示すように、互いの間隔 M が、リブ 1 3 5 の爪部 1 3 5 b と左側壁部 1 0 4 の爪部 1 3 6 と間のスリット部 1 3 4 a の間隔 L よりも若干短い寸法 ($M < L$)、若しくはほぼ同一の寸法 ($M \approx L$) となるように形成されている。

【 0 1 4 3 】

一対の平坦面 2 1 3 a、2 1 3 b は、図 1 0 に示すように、平板部 2 0 1 と面一に延在する仮想平面に対して、蓋体 5 2 の回動中心軸線である軸部 2 1 1 の中心軸線を回転中心として所定角度だけ回転させた傾斜角度に角度付けされて形成されている。

【 0 1 4 4 】

平坦面 2 1 3 a、2 1 3 b の傾斜角度は、図 1 1 に示すように、蓋体 5 2 が開放位置と閉塞位置との中間の予め設定された傾斜角度位置に配置された場合に、一对の平坦面 2 1 3 a、2 1 3 b が底壁部 1 0 3 に対して直交する方向である上下方向に延在する角度に設定されている。

【0 1 4 5】

従って、蓋体 5 2 を上記傾斜角度位置に配置することによって、後側支持軸 2 1 3 の一对の平坦面 2 1 3 a、2 1 3 b を上下に延在させることができ、後側支持軸 2 1 3 の横幅を一对の平坦面 2 1 3 a、2 1 3 b の間隔とし、スリット部 1 3 4 a の間隔以下とすることができる。従って、蓋体 5 2 をそのままの姿勢状態で図 1 1 に矢印で示す取り外し方向である上方に移動させることにより、後側支持軸 2 1 3 をスリット部 1 3 4 a に通過させて後側支持部 1 3 4 から取り外すことができる。

【0 1 4 6】

一方、蓋体 5 2 を閉塞位置（図 1 2 (a) を参照）、若しくは開放位置（図 1 2 (b) を参照）に配置した場合には、後側支持軸 2 1 3 の横幅がスリット部 1 3 4 a の間隔よりも大きな横幅になり、蓋体 5 2 を取り外し方向である上方に移動させても、後側支持軸 2 1 3 の摺動面 2 1 3 c がリブ 1 3 5 の爪部 1 3 5 b と左側壁部 1 0 4 の爪部 1 3 6 に当接して、後側支持軸 2 1 3 をスリット部 1 3 4 a に通過させることはできず、後側支持部 1 3 4 から取り外すことはできない。

【0 1 4 7】

従って、後側支持軸 2 1 3 は、リブ 1 3 5 の腕部 1 3 5 a と左側壁部 1 0 4 との間で回転自在に支持され、蓋体 5 2 を所定の傾斜角度位置に配置した場合にのみ、後側支持部 1 3 4 から取り外すことができ、蓋体 5 2 を閉塞位置、若しくは開放位置に配置した場合には、後側支持部 1 3 4 からの取り外しが阻止される。

【0 1 4 8】

尚、本実施の形態では、蓋体 5 2 を所定の傾斜角度位置に配置した場合に後側支持軸 2 1 3 をスリット部 1 3 4 a の間を通過させることができる構成の例として、一对の平坦面 2 1 3 a、2 1 3 b の間隔 M が、スリット部 1 3 4 a の間隔 L よりも若干短い寸法 ($M < L$)、若しくはほぼ同一の寸法 ($M \approx L$) となるように形成された構成を例に説明したが、この構成に限定されるものではない。

【0 1 4 9】

例えば一对の平坦面 2 1 3 a、2 1 3 b の間隔 M をスリット部 1 3 4 a の間隔 L よりも若干大きい寸法 ($M > L$) とし、蓋体 5 2 を予め設定された傾斜角度位置で取り外し方向に所定値以上の力で付勢した場合に、リブ 1 3 5 の腕部 1 3 5 a を弾性変形させて、スリット部 1 3 4 a の間隔 L を広げて、後側支持軸 2 1 3 を通過させることができ、その他の角度位置では後側支持軸 2 1 3 を通過させることができない構成としてもよい。

【0 1 5 0】

これによれば、所定の傾斜角度位置に配置された蓋体 5 2 を所定値以上の力で取り外し方向に付勢しない限り、スリット部 1 3 4 a を通過させることができないので、例えば補助タンク 5 0 が上下逆に保持されて蓋体 5 2 がタンク本体 5 1 に対して所定の傾斜角度位置に配置された場合に、後側支持軸 2 1 3 が後側支持部 1 3 4 から抜け落ちるのを防ぐことができる。

【0 1 5 1】

また、本実施の形態では、後側支持軸 2 1 3 は、互いに平行な一对の平坦面 2 1 3 a、2 1 3 b を有する場合を例に説明したが、この構成に限定されるものではなく、所定の傾斜角度位置でスリット部 1 3 4 a を通過させることができ、その他の角度位置ではスリット部 1 3 4 a を通過させることができない形状であればよい。例えば断面が長方形や楕円形等のように、所定の傾斜角度位置では後側支持軸 2 1 3 の径方向幅がスリット部 1 3 4 a の間隔 L よりも狭く、その他の角度位置では後側支持軸 2 1 3 の径方向幅がスリット部 1 3 4 a の間隔以上となる形状でもよい。

【0 1 5 2】

中間支持軸 2 1 4 は、蓋体 5 2 を所定の傾斜角度位置に配置した場合にスリット部 1 3 7 a に対して径方向幅が狭く、蓋体 5 2 を傾斜角度位置以外の角度位置に配置した場合にスリット部 1 3 7 a に対して径方向幅が広い断面形状を有し、蓋体 5 2 を傾斜角度位置に配置して取り外し方向に移動させた場合にスリット部 1 3 7 a を通過させて中間支持部 2 1 4 から取り外し可能な構成を有する。

【 0 1 5 3 】

中間支持軸 2 1 4 は、後側支持軸 2 1 3 と同一の寸法形状を有しており、一对の平坦面 2 1 4 a、2 1 4 b がそれぞれ後側支持軸 2 1 3 の一对の平坦面 2 1 3 a、2 1 3 b と同一の平面上に延在するように形成されている。

【 0 1 5 4 】

一对の平坦面 2 1 4 a、2 1 4 b は、互いの間隔が、リブ 1 3 8 の爪部 1 3 8 b と左側壁部 1 0 4 の爪部 1 3 9 との間のスリット部 1 3 7 a の間隔よりも若干短い寸法、若しくはほぼ同一の寸法形状となるように形成されている。

【 0 1 5 5 】

従って、蓋体 5 2 を所定の傾斜角度位置に配置することによって、中間支持軸 2 1 4 の一对の平坦面 2 1 4 a、2 1 4 b を、取り外し方向に沿う方向である上下に延在させることができ、中間支持軸 2 1 4 の横幅を一对の平坦面 2 1 4 a、2 1 4 b の間隔とし、スリット部 1 3 7 a の間隔以下とすることができる。従って、蓋体 5 2 をそのままの姿勢状態で取り外し方向である上方に移動させることにより、中間支持軸 2 1 4 をスリット部 1 3 7 a に通過させて中間支持部 1 3 7 から取り外すことができる。

【 0 1 5 6 】

一方、蓋体 5 2 を閉塞位置、若しくは開放位置に配置した場合には、中間支持軸 2 1 4 の横幅がスリット部 1 3 7 a の間隔よりも大きな横幅になり、蓋体 5 2 を取り外し方向である上方に移動させても、中間支持軸 2 1 4 の摺動面 2 1 4 c がリブ 1 3 8 の爪部 1 3 8 b と左側壁部 1 0 4 の爪部 1 3 9 に当接して、中間支持軸 2 1 4 をスリット部 1 3 7 a に通過させることはできず、中間支持部 1 3 7 から取り外すことはできない。

【 0 1 5 7 】

従って、中間支持軸 2 1 4 は、リブ 1 3 8 の腕部 1 3 8 a と左側壁部 1 0 4 との間で回転自在に支持され、蓋体 5 2 を所定の傾斜角度位置に配置した場合にのみ、中間支持部 1 3 7 から取り外すことができ、蓋体 5 2 を閉塞位置、若しくは開放位置に配置した場合には、中間支持部 1 3 7 からの取り外しが阻止される。

【 0 1 5 8 】

本実施の形態では、蓋体 5 2 を所定の傾斜角度位置に配置した場合に中間支持軸 2 1 4 をスリット部 1 3 7 a の間を通過させることができる構成の例として、一对の平坦面 2 1 4 a、2 1 4 b の間隔 M が、スリット部 1 3 7 a の間隔 L よりも若干短い寸法、若しくはほぼ同一の寸法となるように形成された構成を例に説明したが、この構成に限定されるものではない。

【 0 1 5 9 】

例えば一对の平坦面 2 1 4 a、2 1 4 b の間隔 M をスリット部 1 3 7 a の間隔 L よりも若干大きい寸法とし、蓋体 5 2 を予め設定された傾斜角度位置で取り外し方向に所定値以上の力で付勢した場合に、リブ 1 3 8 の腕部 1 3 8 a を弾性変形させて、スリット部 1 3 7 a の間隔を広げて、中間支持軸 2 1 4 を通過させることができ、その他の角度位置では中間支持軸 2 1 4 を通過させることができない構成としてもよい。

【 0 1 6 0 】

これによれば、所定の傾斜角度位置に配置された蓋体 5 2 を所定値以上の力で取り外し方向に付勢しない限り、スリット部 1 3 7 a を通過させることができないので、例えば補助タンク 5 0 が上下逆に保持されて蓋体 5 2 がタンク本体 5 1 に対して所定の傾斜角度位置に配置された場合に、中間支持軸 2 1 4 が中間支持部 1 3 7 から抜け落ちるのを防ぐことができる。

【 0 1 6 1 】

また、本実施の形態では、中間支持軸 2 1 4 は、互いに平行な一对の平坦面 2 1 4 a、2 1 4 b を有する場合を例に説明したが、この構成に限定されるものではなく、所定の傾斜角度位置でスリット部 1 3 7 a を通過させることができ、その他の角度位置ではスリット部 1 3 7 a を通過させることができない形状であればよい。例えば断面が長方形や楕円形等のように、所定の傾斜角度位置では中間支持軸 2 1 4 の径方向幅がスリット部 1 3 7 a よりも狭く、その他の角度位置では中間支持軸 2 1 4 の径方向幅がスリット部 1 3 7 a の間隔以上となる形状でもよい。

【0 1 6 2】

軸部 2 1 1 には、タンク本体 5 1 のリブ 1 4 5、1 4 6 と係合してケース本体 5 1 に対する軸方向の移動を規制する切欠溝 2 1 5、2 1 6 が形成されている。切欠溝 2 1 5、2 1 6 は、軸部 2 1 1 の軸方向に直交する方向に軸部 2 1 1 の一部を切り欠いて形成されている。

【0 1 6 3】

リブ 1 4 5、1 4 6 は、タンク本体 5 1 の底壁部 1 0 1 と左側壁部 1 0 4 との接続部分に設けられており、例えば図 7 及び図 1 3 に示すように、タンク本体 5 1 の前後方向に一定の厚さ幅を有し、上方から下方に移行するに従って漸次左側壁部 1 0 4 から離反するように傾斜した形状を有する。

【0 1 6 4】

切欠溝 2 1 5、2 1 6 は、リブ 1 4 5、1 4 6 と対応する箇所に形成されており、蓋体 5 2 を支持手段 5 6 に支持させた場合に、リブ 1 4 5、1 4 6 が挿入され、閉塞位置若しくは開放位置のいずれにおいてもリブ 1 4 5、1 4 6 と係合し、軸部の軸方向への移動が規制される（例えば、図 1 3 (a) 又は図 1 3 (b) を参照）。従って、蓋体 5 2 が軸部 2 1 1 の軸方向に移動されるのを防止し、支持手段 5 6 から蓋体 5 2 が取り外されるのを防ぐことができる。

【0 1 6 5】

上記蓋体 5 2 のタンク本体 5 1 への組み付けは、まず最初に、蓋体 5 2 をタンク本体 5 1 の上方から内方に挿入し、蓋体 5 2 の前側支持軸 2 1 2 を前側支持部 1 3 1 の孔部 1 3 2 に挿入する。それから、例えば図 1 1 に仮想線で示すように、後側支持軸 2 1 3 を後側支持部 1 3 4 の上方に配置し、蓋体 5 2 のタンク本体 5 1 に対する傾斜角度を予め設定された傾斜角度に調整し、一对の平坦面 2 1 3 a、2 1 3 b がそれぞれ上下に延在するように配置する。

【0 1 6 6】

そして、蓋体 5 2 の後部を下方に移動させて、後側支持軸 2 1 3 を後側支持部 1 3 4 のリブ 1 3 5 の爪部 1 3 5 b と左側壁部 1 0 4 の爪部 1 3 6 との間のスリット部 1 3 4 a に通過させ、図 1 1 に実線で示すように、後側支持部 1 3 4 に支持させる。また同時に、中間支持軸 2 1 4 を中間支持部 1 3 7 のリブ 1 3 8 の爪部 1 3 8 b と左側壁部 1 0 4 の爪部 1 3 9 との間のスリット部 1 3 7 a に通過させ、中間支持部 1 3 7 に支持させる。

【0 1 6 7】

これにより、蓋体 5 2 は、タンク本体 5 1 に組み付けられ、タンク本体 5 1 の内方でタンク本体 5 1 に回転自在に支持されて、閉塞位置と開放位置のいずれか一方に選択的に配置されて、開口穴 5 3 を開放及び閉塞することができる。そして、閉塞位置では、平板部 2 0 1 の下面 2 0 1 b が水平面部 1 2 1 の上面 1 2 1 a に接面してタンク本体 5 1 の開口穴 5 3 を閉塞するので、コインの重量によって補助タンク 5 0 の底が抜けるのを防ぐことができる。そして、蓋体 5 2 を予め設定された角度位置に保持した状態でタンク本体 5 1 内に挿入して組み立てるので、製造工場における組立作業を容易化できる。

【0 1 6 8】

上記構成を有する補助タンク 5 0 は、蓋体 5 2 を回転させて閉塞位置と開放位置のいずれか一方に選択的に配置できるので、開口穴 5 3 を開放状態から閉塞状態に切り替えて手動回収に対応させ、また、閉塞状態から開放状態に切り替えて自動回収に対応させることができる。

【 0 1 6 9 】

従って、例えば遊技媒体であるコインが自動回収される遊技ホールや島設備に配設されていたスロットマシン 1 を、コインが手動回収される遊技ホールや島設備に移動させた場合に、補助タンク 5 0 の蓋体 5 2 を開放位置から閉塞位置に回動させて、補助タンク 5 0 の開口穴 5 3 を閉塞し、補助タンク 5 0 を自動回収に対応するものから手動回収に対応するものに変更することができる。

【 0 1 7 0 】

従って、補助タンク 5 0 を新たに購入する必要がなく、スロットマシン 1 の移設に伴うコストを低減することができる。また、蓋体 5 2 がタンク本体 5 1 に回動自在に支持されているので、例えば補助タンク 5 0 の開口穴 5 3 を開放させた状態で使用していた場合に、蓋体 5 2 の紛失を防ぐことができる。

【 0 1 7 1 】

また、例えばコインが自動回収される遊技ホールや島設備に配設されていたスロットマシン 1 を、コインが手動回収される遊技ホールや島設備に移動させる場合に、補助タンク 5 0 の蓋体 5 2 を閉塞位置に保持させて、筐体 2 の底板 2 B に開口しているコイン回収穴 2 F を補助タンク 5 0 によって閉塞し、筐体 2 の内部と外部との間を隔絶することができる。従って、コイン回収穴 2 F から筐体 2 の内部にゴミなどの異物が侵入するのを防ぐことができる。

【 0 1 7 2 】

また、補助タンク 5 0 は、蓋体 5 2 が開放位置と閉塞位置の中間の予め設定された傾斜角度位置に配置された状態でのみ、後側支持軸 2 1 3 と中間支持軸 2 1 4 を後側支持部 1 3 4 と中間支持部 1 3 7 に対して上方に移動させて取り外すことができ、蓋体 5 2 が閉塞位置や開放位置に配置されている場合には、取り外すことができないようになっている。

【 0 1 7 3 】

これにより、蓋体 5 2 をタンク本体 5 1 から取り外すことができる位置を、蓋体 5 2 の姿勢が不安定で位置決めが困難な位置としている。従って、蓋体 5 2 の姿勢が安定して蓋体 5 2 に対する不正行為が行われやすい位置である、閉塞位置や開放位置での蓋体 5 2 の取り外しを困難なものとし、蓋体 5 2 の取り外しによる不正行為を有効に防止できる。

【 0 1 7 4 】

また、前側支持軸 2 1 2 を軸方向に移動させて前側支持部 1 3 1 の孔部 1 3 3 から取り外す構造としたので、支持手段 5 6 から蓋体 5 2 を取り外すには、蓋体 5 2 の後部を取り外し方向である上方に移動させて後側支持軸 2 1 3 及び中間支持軸 2 1 4 を後側支持部 1 3 4 及び中間支持部 1 3 7 から取り外した後に、蓋体 5 2 を後方に移動させて前側支持軸 2 1 2 を前側支持部 1 3 1 の孔部 1 3 3 から引き抜く必要があり、蓋体 5 2 の取外作業の困難化が図られている。従って、支持手段 5 6 から蓋体 5 2 が簡単に取り外されるのを防ぐことができる。

【 0 1 7 5 】

尚、本実施の形態では、蓋体 5 2 を所定の傾斜角度位置に配置した場合に、後側支持軸 2 1 3 及び中間支持軸 2 1 4 を後側支持部 1 3 4 及び中間支持部 1 3 7 から上方に取り外すことができる構成の場合を例に説明したが、これに限定されるものではなく、前側支持軸 2 1 2 も同様に前側支持部 1 3 1 から取り外し方向である上方に向かって取り外すことができる構成としてもよい。

【 0 1 7 6 】

図 1 6 は、筐体 2 の内方に補助タンク 5 0 が装着された状態を正面から示す断面図であり、図 1 7 は、図 1 6 の要部を拡大して示した補助タンク 5 0 の蓋体 5 2 の動きを説明する図である。

【 0 1 7 7 】

上記構成を有する補助タンク 5 0 を、蓋体 5 2 が閉塞位置に配置された状態で筐体 2 の内方に装着した場合、図 4 及び図 1 6 に示すように、タンク本体 5 1 の第 1 センサ挿入穴 1 6 1 と第 2 センサ挿入穴 1 6 2 にセンサ棒 1 9 A、1 9 B が挿入され、センサ棒 1 9 B

が蓋体 5 2 の回動軌跡の途中位置で且つ蓋体 5 2 の開放側に対向する位置に配置される。

【 0 1 7 8 】

従って、蓋体 5 2 が閉塞位置から開放側に回動された場合に、図 1 7 に示すように、センサ棒 1 9 B に蓋体 5 2 の平板部 2 0 1 の上面 2 0 1 a を当接させて蓋体 5 2 の開放側への回動を規制することができる。

【 0 1 7 9 】

従って、例えばスロットマシン 1 を島設備に設置する前や、中古機として移設するために島設備から取り外された状態等、スロットマシン 1 単体の状態とされて筐体 2 の底板 2 B のコイン回収穴 2 F が露出する状況において、蓋体 5 2 を閉塞位置に配置した状態で補助タンク 5 0 を本体 4 内に装着しておくことにより、コイン回収穴 2 F から手や器具等が挿入されて蓋体 5 2 が閉塞位置から開放側に回動する方向に付勢された場合に、蓋体 5 2 をセンサ棒 1 9 B に当接させて、蓋体 5 2 の開放側への回動を規制し、開口穴 5 3 が開放されるのを防ぐことができる。

【 0 1 8 0 】

従って、筐体 2 のコイン回収穴 2 F から補助タンク 5 0 の開口穴 5 3 を通して本体 4 内に針金や特殊工具等の異物が挿入されるのを防ぐことができ、このような異物を使用した種々の不正行為を未然に防ぐことができる。

【 0 1 8 1 】

また、本実施の形態では、蓋体 5 2 をタンク本体 5 1 から取り外すことが可能な傾斜角度位置よりも、蓋体 5 2 を開放側に回動させてセンサ棒 1 9 B に当接させた場合の傾斜角度位置の方が閉塞側に位置するように、センサ棒 1 9 B の高さ位置が設定されている。

【 0 1 8 2 】

従って、蓋体 5 2 が閉塞位置から開放側に回動する方向に付勢された場合に、センサ棒 1 9 B に当接させて蓋体 5 2 の開放側への回動を規制すると共に、蓋体 5 2 がタンク本体 5 1 から取外可能な傾斜角度位置に配置されるのを防ぐことができる。

【 0 1 8 3 】

従って、蓋体 5 2 がタンク本体 5 1 から取り外されて開口穴 5 3 が開放されるのを防ぐことができ、例えば筐体 2 のコイン回収穴 2 F から補助タンク 5 0 の開口穴 5 3 を通して本体 4 内に針金や特殊工具等の異物が挿入されるのを防ぎ、このような異物を使用した種々の不正行為を未然に防ぐことができる。

【 0 1 8 4 】

また、補助タンク 5 0 は、筐体 2 の内方に装着されて前面扉 3 を閉じた場合に、図 4 及び図 1 6 に示すように、タンク本体 5 1 が右側板 2 E、背板 2 C、スピーカ 3 2 R 等に当接して補助タンク移動規制手段として作用し、補助タンク 5 0 の上下左右、及び前後の移動が規制される。

【 0 1 8 5 】

従って、従来から遊技機本体 4 内に存在する既存部材を利用して補助タンク 5 0 の移動を規制することができ、部品点数を増加させることなく、補助タンク移動規制手段を構成することができる。

【 0 1 8 6 】

従って、コイン回収穴 2 F から手や器具等が挿入されて補助タンク 5 0 の位置が変更されるのを防ぐことができ、コイン回収穴 2 F から筐体 2 の内部に連通する隙間が形成されるのを防ぐことができる。

【 0 1 8 7 】

従って、筐体 2 のコイン回収穴 2 F から隙間を通して筐体 2 の内部に針金等の異物が挿入されるのを防止でき、このような異物を使用した種々の不正行為を未然に防ぐことができる。

【 0 1 8 8 】

尚、上述の実施の形態では、蓋体 5 2 がタンク本体 5 1 に回動自在に支持されて、蓋体回動規制手段であるセンサ棒 1 9 B によって蓋体 5 2 の開放側への回動を規制する場合を

例に説明したが、蓋体 5 2 が開放側に移動されるのを防ぐのであればよく、蓋体移動規制手段を設けて、蓋体 5 2 の開放側への移動を規制し、またその規制を解除する構成としてもよい。

【 0 1 8 9 】

また、上述の実施の形態では、蓋体 5 2 に後側支持軸 2 1 3 等を設け、タンク本体 5 1 に後側支持部 1 3 4 等を設けた構成を例に説明したが、これに限定されるものではなく、例えば蓋体 5 2 に支持部を設け、タンク本体 5 1 に支持軸を設けたものであってもよい。

【 0 1 9 0 】

また、上述の実施の形態では、タンク本体 5 1 の底壁部 1 0 1 に形成された開口穴 5 3 を蓋体 5 2 によって開閉する補助タンク 5 0 の場合を例に説明したが、底壁部 1 0 1 に開口穴 5 3 が設けられておらず、完全に閉塞された補助タンクの場合も、コイン回収穴 2 F から筐体 2 の底板 2 B と補助タンクとの間に隙間が形成されるのを防ぐことができ、かかる隙間を通して筐体 2 の内部に針金等の異物が挿入されるのを防止できる。

【 0 1 9 1 】

[第 2 実施の形態]

図 1 8 は、本発明が適用される第 2 実施の形態を説明する図であり、図 1 7 に対応する図である。第 1 実施の形態と同様の構成要素には同一の符号を付することでその詳細な説明を省略する。

【 0 1 9 2 】

本実施の形態において特徴的なことは、蓋体 5 2 を閉塞位置から開放側に回動させてセンサ棒 1 9 B に当接させた状態で蓋体 5 2 とタンク本体 5 1 の内面との間に介在される底部 6 1 を補助タンク 5 0 に設けたことである。

【 0 1 9 3 】

底部 6 1 は、補助タンク 5 0 の内方で且つ蓋体 5 2 の回動を阻害しない位置に設けられており、図 1 8 に示すように、センサ棒 1 9 B に蓋体 5 2 を当接させた場合に蓋体 5 2 の先端部よりも上方の高さ位置に設けられている。

【 0 1 9 4 】

底部 6 1 は、右側壁部 1 0 5 の下部から左側壁部 1 0 4 側に向かって突出し、蓋体 5 2 の先端部と右側壁部 1 0 5 の内面との間に亘る横幅で蓋体 5 2 の前後に沿って延在する。

【 0 1 9 5 】

従って、蓋体 5 2 を開放側に回動させてセンサ棒 1 9 B に当接させた場合に、蓋体 5 2 の先端部と右側壁部 1 0 5 の内面との間に形成される開口隙間に底部 6 1 を介在させて、かかる開口隙間を閉塞することができる。従って、開口隙間から本体 4 内に針金や特殊工具等の異物が挿入されるのを困難化ができ、このような異物を使用した種々の不正行為を未然に防ぐことができる。

【 0 1 9 6 】

[第 3 実施の形態]

図 1 9 は、本発明が適用される第 3 実施の形態を説明する図であり、図 1 7 に対応する図である。第 1 実施の形態と同様の構成要素には同一の符号を付することでその詳細な説明を省略する。

【 0 1 9 7 】

本実施の形態において特徴的なことは、補助タンク 5 0 を筐体 2 の内方に装着して蓋体 5 2 を閉塞位置から開放側に回動させた場合に、蓋体 5 2 の先端部とタンク本体 5 1 の右側壁部 1 0 5 の内面との間に形成される開口隙間が漸次拡大されるのを防ぐ湾曲部 6 2 を補助タンク 5 0 に設けたことである。

【 0 1 9 8 】

湾曲部 6 2 は、蓋体 5 2 の回動を阻害しない位置に設けられており、図 1 9 に示すように、右側壁部 1 0 5 の下部に突設されている。湾曲部 6 2 は、蓋体 5 2 が閉塞位置からセンサ棒 1 9 B に当接するまでの蓋体 5 2 の先端部の回動軌跡に沿って断面が略円弧状に湾曲する湾曲形状を有する。そして、本実施の形態では、湾曲部 6 2 の上端と底部 6 1 の先

端部とが連結して形成されている。

【0199】

従って、蓋体52を閉塞位置から開放側に回動させた場合に、蓋体52の先端部とタンク本体51の右側壁部105の内面との間に形成される開口隙間が漸次拡大されるのを防ぐことができる。従って、かかる開口隙間から遊技機本体4内に針金や特殊工具等の異物が挿入されるのを困難化でき、このような異物を使用した種々の不正行為を未然に防ぐことができる。

【0200】

尚、湾曲部62の断面形状は、厳密な円弧に限定されるものではなく、開口隙間から遊技機本体4内に異物を挿入する行為を困難化できればよく、例えば複数の短い直線を円弧状に連続して配列させたものなど、略円弧状のものも含まれる。

【0201】

[第4実施の形態]

図20は、本発明が適用される第4実施の形態を説明する図であり、図17に対応する図である。第1実施の形態と同様の構成要素には同一の符号を付することでその詳細な説明を省略する。

【0202】

本実施の形態において特徴的なことは、第1実施の形態と比較して第2センサ挿入穴162を蓋体52に接近させた位置に形成し、かかる第2センサ挿入穴162にセンサ棒19Bが挿入される構成としたことである。

【0203】

この構成によれば、補助タンク50を筐体2の内方に装着した場合に、蓋体52に対してセンサ棒19Bが、より接近した位置で且つ蓋体52の先端側に配置される。

【0204】

従って、かかる状態から蓋体52が開放側に回動された場合に、蓋体52の開き角度を、より小さくすることができ、蓋体52と開口穴53との間に形成される開口隙間を、より狭くすることができる。従って、筐体2のコイン回収穴2Fから補助タンク50の開口穴53を通して筐体2の内部に針金等の異物を挿入する行為を、より困難なものとすることができ、不正行為を効果的に防ぐことができる。

【0205】

[第5実施の形態]

図21、22は、本発明が適用される第5実施の形態を説明する図である。尚、第1実施の形態と同様の構成要素には同一の符号を付することでその詳細な説明を省略する。

【0206】

本実施の形態において特徴的なことは、一直線状のセンサ棒19Bの代わりに、クランク形状のセンサ棒19Cを使用し、センサ棒19Cの取付姿勢状態を、先端部73が基端部71よりも下方の高さ位置に位置する回動規制姿勢状態と、先端部73が基端部71の高さ位置以上の高さ位置に位置するセンサ使用姿勢状態のいずれか一方に選択的に切り替えて、センサ棒19Cをコインの貯留状態を優位に検出する場合と蓋体52の回動を規制する場合に適宜切り替えて使用可能な構成としたことである。

【0207】

センサ棒19Cは、導電性の金属製材料からなる六角柱状の棒部材をクランク状に形成することによって構成されている。センサ棒19Cの基端部71は、一定の断面形状で一直線状に延在し、ソケット70に一端が挿入されて支持された場合に、筐体2の前方に向かって延在し、補助タンク50の第2センサ挿入穴163に挿通されてタンク本体51の開口穴53の上方位位置まで到達する長さを有する。

【0208】

センサ棒19Cの先端部73は、基端部71の他端で折曲されて基端部71の軸方向に直交する方向に突出する段差部72の先端で基端部71と離反する方向に折曲されて、基端部71と偏位して延在する形状を有する。

【 0 2 0 9 】

筐体 2 の背板 2 C には、センサ棒 1 9 C が着脱自在に支持されるソケット 7 0 が設けられている。ソケット 7 0 は、筐体 2 の前方に向かって開口し、センサ棒 1 9 C の基端部 7 1 を挿入して嵌合可能な六角穴 7 0 a を有する。

【 0 2 1 0 】

ソケット 7 0 の六角穴 7 0 a は、回転規制姿勢状態で基端部 7 1 が挿入された場合に、センサ棒 1 9 C をそのままの回転規制姿勢状態で支持し、センサ使用姿勢状態で基端部 7 1 が挿入された場合に、センサ棒 1 9 C をそのままのセンサ使用姿勢状態で支持するように、位相が設定されている。

【 0 2 1 1 】

これにより、例えばセンサ棒 1 9 C を回転規制姿勢状態でソケット 7 0 に取り付けただけの場合には、図 2 1 及び図 2 2 に実線で示すように、センサ棒 1 9 C の先端部 7 3 を、基端部 7 1 の高さ位置よりも下方の高さ位置に配置することができ、蓋体 5 2 の上面 2 0 1 a に対して、より接近させた位置に対向配置することができる。

【 0 2 1 2 】

従って、基端部 7 1 が筐体 2 の背板 2 C に支持される高さ位置を低くすることなく、筐体 5 2 が開放側に回転される開き角度を小さくすることができ、蓋体 5 2 とタンク本体 5 1 の内面との間に形成される開口隙間を狭くすることができる。

従って、かかる開口隙間から針金や特殊工具等の異物を挿入する行為を、より困難なものとすることができ、不正行為を効果的に防ぐことができる。

【 0 2 1 3 】

従って、例えばスロットマシン 1 を中古機として移動する場合等、スロットマシン 1 単体の状態とされてコイン回収穴 2 F が露出される状況において、蓋体を閉塞位置に配置した状態で補助タンクを筐体 2 の内方に装着し、センサ棒 1 9 C を回転規制姿勢状態でソケット 7 0 に取り付けることによって、蓋体 5 2 の開放側への回転を規制することができる。

【 0 2 1 4 】

一方、センサ棒 1 9 C をセンサ使用姿勢状態でソケット 7 0 に取り付けただけの場合に、図 2 1 及び図 2 2 に仮想線で示すように、センサ棒 1 9 C の先端部 7 3 を、基端部 7 1 の高さ位置以上の高さ位置に配置することができ、例えばタンク本体 5 1 の内方でコインの貯留状態を検出するのに好適な高さ位置に配置することができる。

【 0 2 1 5 】

従って、例えばスロットマシン 1 を使用する場合等、センサ棒 1 9 C を、コインの貯留状態を検出するセンサとして使用することができる。そして、補助タンク 5 0 を筐体 2 の内方に装着する際、及び、筐体 2 の内方から取り出す際に、センサ棒 1 9 C を第 2 ソケット挿入穴 1 6 3 に通過させることができる。第 2 ソケット挿入穴 1 6 3 は、長軸が上下に延在する長穴形状を有するようにタンク本体 5 1 の後壁部 1 0 3 に開口して形成されており、センサ使用姿勢状態のセンサ棒 1 9 C を通過させることができる位置に設けられている。

【 0 2 1 6 】

本実施の形態によれば、センサ棒 1 9 C の姿勢状態をセンサ棒 1 9 C の使用状況に応じて簡単に切り替えることができ、蓋体 5 2 の回転規制とその解除を簡単に行うことができる。

【 0 2 1 7 】

尚、上述の第 5 実施の形態では、筐体 2 の背板 2 C に設けたソケット 7 0 に、センサ棒 1 9 C を着脱自在に取り付ける構造の場合を説明したが、センサ棒 1 9 C を背板 2 C に回転自在に支持し、先端部 7 3 を上方位置と下方位置のいずれか一方に選択的に固定する構造としてもよい。

【 0 2 1 8 】

例えば、センサ棒 1 9 C の基端部 7 1 から同軸上に突出する雄ねじ部を、筐体 2 の背板

２Ｃに設けられた雌ねじ部に螺入してセンサ棒１９Ｃを取り付ける構造とした場合には、蓋体５２が開放側に移動されてセンサ棒１９Ｃに当接した際に、蓋体５２からセンサ棒１９Ｃに加えられる力の向きを、センサ棒１９Ｃを螺入方向に回転させる方向となるように構成することができる。従って、蓋体５２を開放側に回動させようとした場合に、背板２Ｃの雌ねじ部に対してセンサ棒１９Ｃの雄ねじ部をより締め込むことができ、センサ棒１９Ｃが取り外されるのを防ぐことができる。

【０２１９】

また、センサ棒１９Ｃは、略クランク状の場合を例に説明したが、例えば先端部７３を省略し、基端部７１と段差部７２とからなる略Ｌ字状としてもよい。

【０２２０】

本発明は、上述の各実施の形態に限定されるものではなく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で種々の変更が可能である。例えば、上述の各実施の形態では、蓋体５２の開放側への回動を規制するストッパとして、センサ棒１９Ｂ、又は１９Ｃを利用する場合を例に説明したが、センサ棒１９Ｂ、又は１９Ｃとは別個にストッパを設けてもよい。

【０２２１】

また、上述の各実施の形態では、補助タンク５０、６０の筐体２の内方における位置決めを、ホッパ１５、スピーカ３２Ｒ、右側板２Ｅ、背板２Ｃ等によって行う場合を例に説明したが、レール部材等を設けて補助タンク５０を筐体２の内方で前後方向に案内可能に支持し、前後左右、及び上下方向の移動を規制してもよい。

【図面の簡単な説明】

【０２２２】

【図１】スロットマシンの前面扉が閉じた状態を示す斜視図である。

【図２】スロットマシンの前面扉が開いた状態を示す斜視図である。

【図３】スロットマシンの筐体内を正面から示す図である。

【図４】図３のⅠ－Ⅰ線断面矢視図である。

【図５】補助タンクの開口部が蓋体によって閉塞された状態を示す補助タンクの斜視図である。

【図６】補助タンクの開口部が開放された状態を示す補助タンクの斜視図である。

【図７】補助タンクの平面図である。

【図８】図７のⅡ－Ⅱ線断面矢視図である。

【図９】蓋体を示す斜視図である。

【図１０】蓋体の側面図である。

【図１１】蓋体をタンク本体に取り付ける取付方法を説明する図である。

【図１２】蓋体の支持状態を説明する図である。

【図１３】図５のⅢ－Ⅲ線断面矢視図である。

【図１４】図７のⅣ－Ⅳ線断面矢視図である。

【図１５】図６のⅤ－Ⅴ線断面矢視図である。

【図１６】筐体の内方に補助タンクが装着された状態を正面から示す断面図である。

【図１７】図１６の要部を拡大して示した蓋体の動きを説明する図である。

【図１８】第２実施の形態を説明する図である。

【図１９】第３実施の形態を説明する図である。

【図２０】第４実施の形態を説明する図である。

【図２１】第５実施の形態を説明する図であり、センサ棒の構成を一部断面によって示す側面図である。

【図２２】図２１のⅥ－Ⅵ線断面矢視図である。

【符号の説明】

【０２２３】

- １ スロットマシン（遊技機）
- ２ 筐体
- ３ 前面扉

- 4 本体（遊技機本体）
 - 1 5 ホッパ
 - 1 9 A、1 9 B、1 9 C センサ棒
 - 5 0 補助タンク
 - 5 1 タンク本体
 - 5 2 蓋体
 - 5 3 開口穴
 - 6 1 底部
 - 6 2 湾曲部
 - 7 0 ソケット
 - 1 0 1 底壁部
 - 1 2 3 前側閉塞係止穴（閉塞係止穴）
 - 1 2 5 後側閉塞係止穴（閉塞係止穴）
 - 1 3 1 前側支持部（第 1 支持部）
 - 1 3 3 孔部
 - 1 3 4 後側支持部（支持部、第 2 支持部）
 - 1 3 4 a、1 3 7 a スリット部
 - 1 4 2 前側開放係止穴（開放係止穴）
 - 1 4 4 後側開放係止穴（開放係止穴）
 - 1 6 1 第 1 センサ挿入穴
 - 1 6 2、1 6 3 第 2 センサ挿入穴
 - 2 0 1 平板部
 - 2 0 5 前側凸部（凸部）
 - 2 0 6 後側凸部（凸部）
 - 2 1 2 前側支持軸（第 1 支持軸）
 - 2 1 3 後側支持軸（支持軸、第 2 支持軸）
 - 2 1 3 a、2 1 3 b 平坦面
 - 2 1 3 c 摺動面